

国道415号県境部に関する有識者委員会

第1回

< 目 次 >

1. 調査検討範囲	．．．	1
2. 計画策定手続きの進め方（案）	．．．	3
3. 地域の現状と課題	．．．	6
4. 道路交通の現状と課題	．．．	16
5. 政策目標の設定	．．．	19
6. ルート帯の検討	．．．	31
7. 意見聴取方法および評価項目の設定（案）	．．．	39

令和6年7月17日（水）

1. 調査検討範囲

1. 調査検討範囲

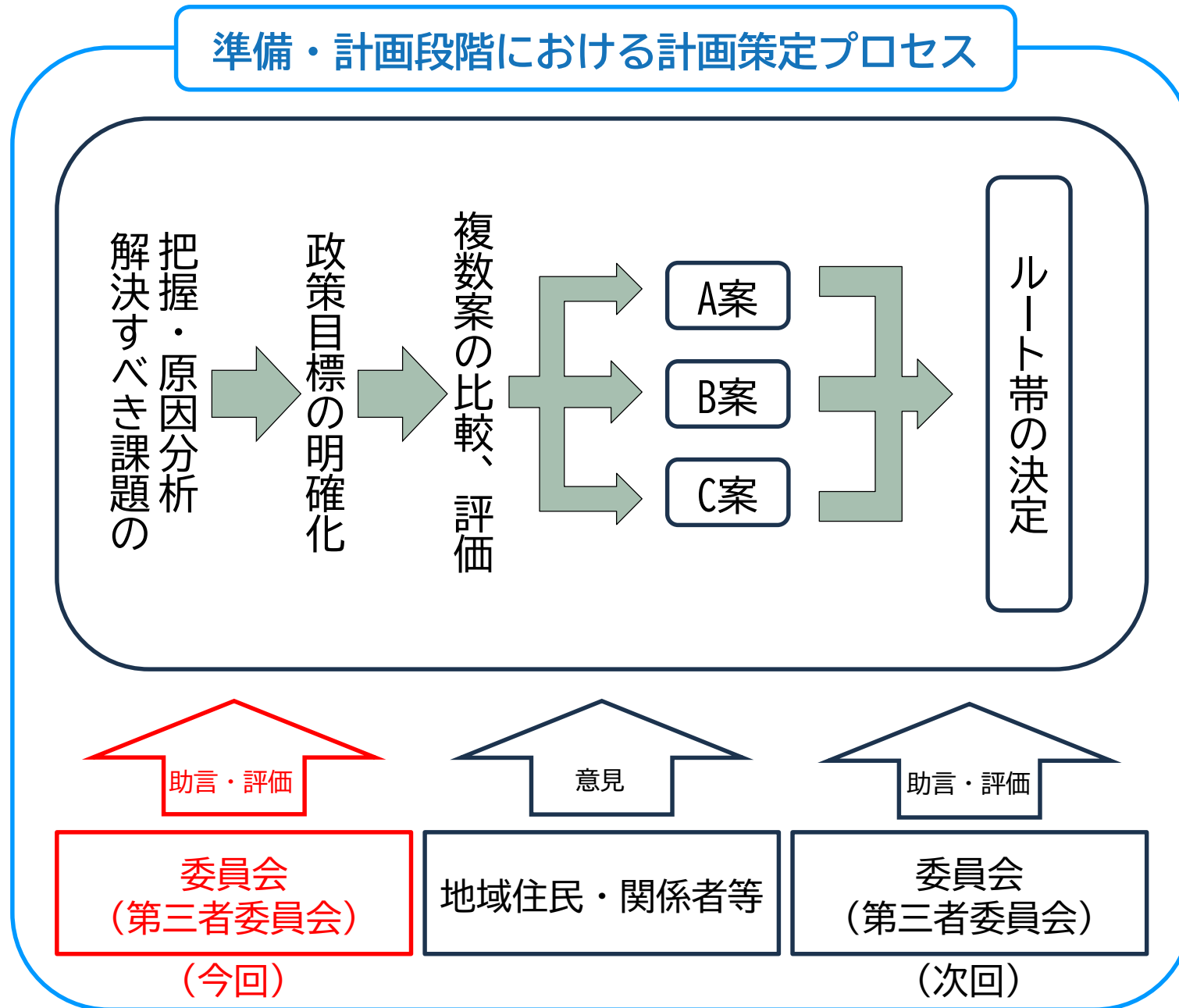
2

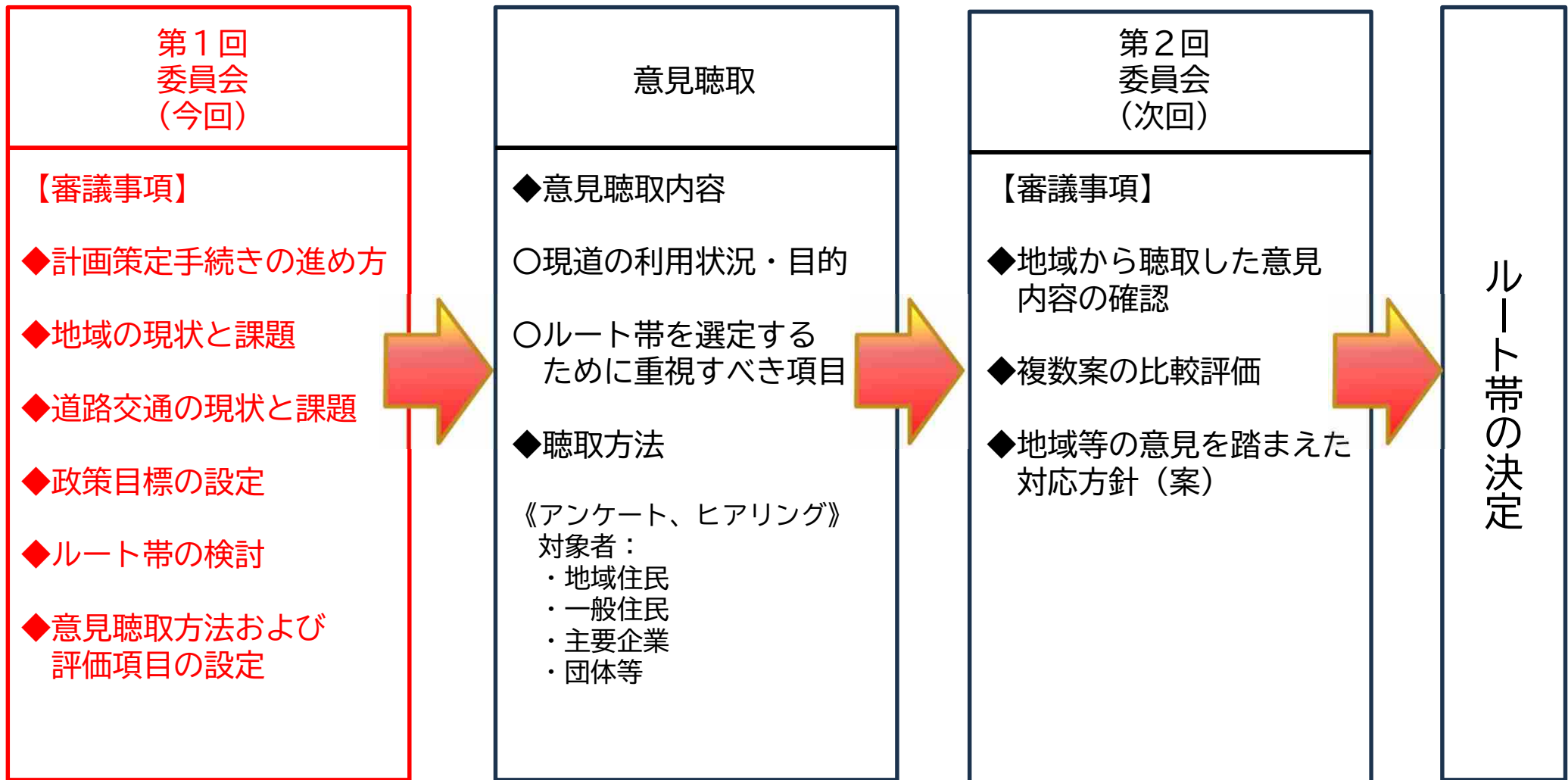
国道415号整備状況

- 国道415号は石川県羽咋市を起点に富山県氷見市を経由して同県富山市に至る東西幹線道路である。
- 国道415号の富山石川県境付近において、石川県側では羽咋バイパスがR5年10月に供用し、神子原地区の整備延伸を調査中である。富山県側では谷屋大野バイパスを事業中である。
- 調査検討範囲は、上記整備区間に挟まれた石川県羽咋市神子原町～富山県氷見市谷屋間の約5.2kmである。



2. 計画策定手続きの進め方(案)





3. 地域の現状と課題

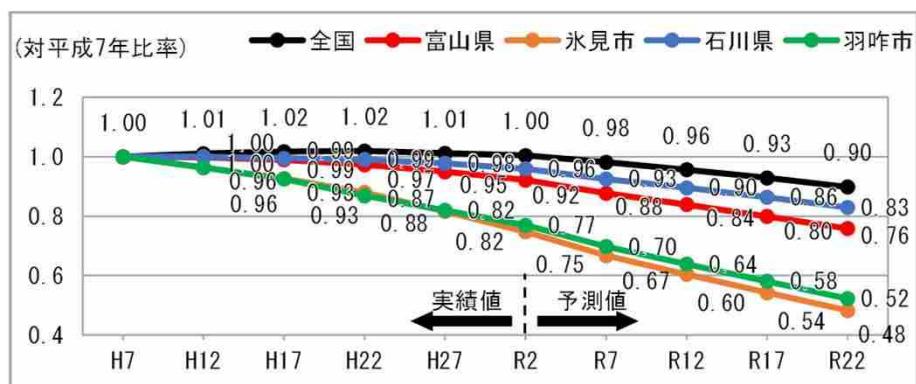
3. 地域の現状と課題

7

(1)人口

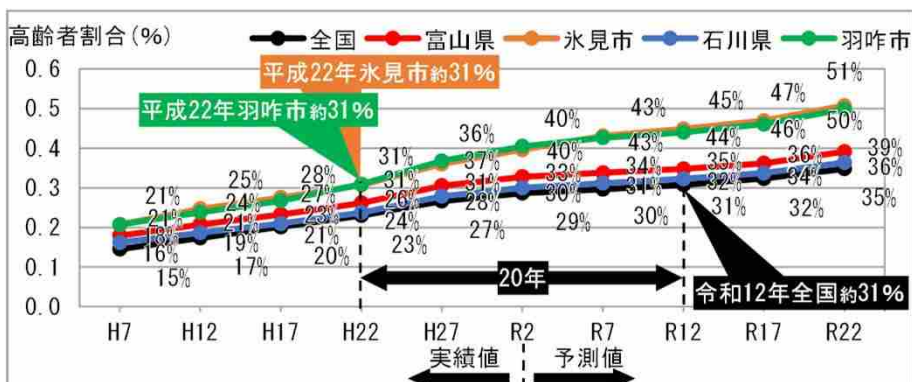
- 氷見市・羽咋市の人口は、全国・富山県・石川県を上回るペースで人口が減少している。
- 氷見市・羽咋市の高齢者割合は、全国・富山県・石川県を上回り、20年以上進行している。
- 氷見市・羽咋市の生産年齢人口の割合は、全国に比べて8～9%低い。

■人口の推移



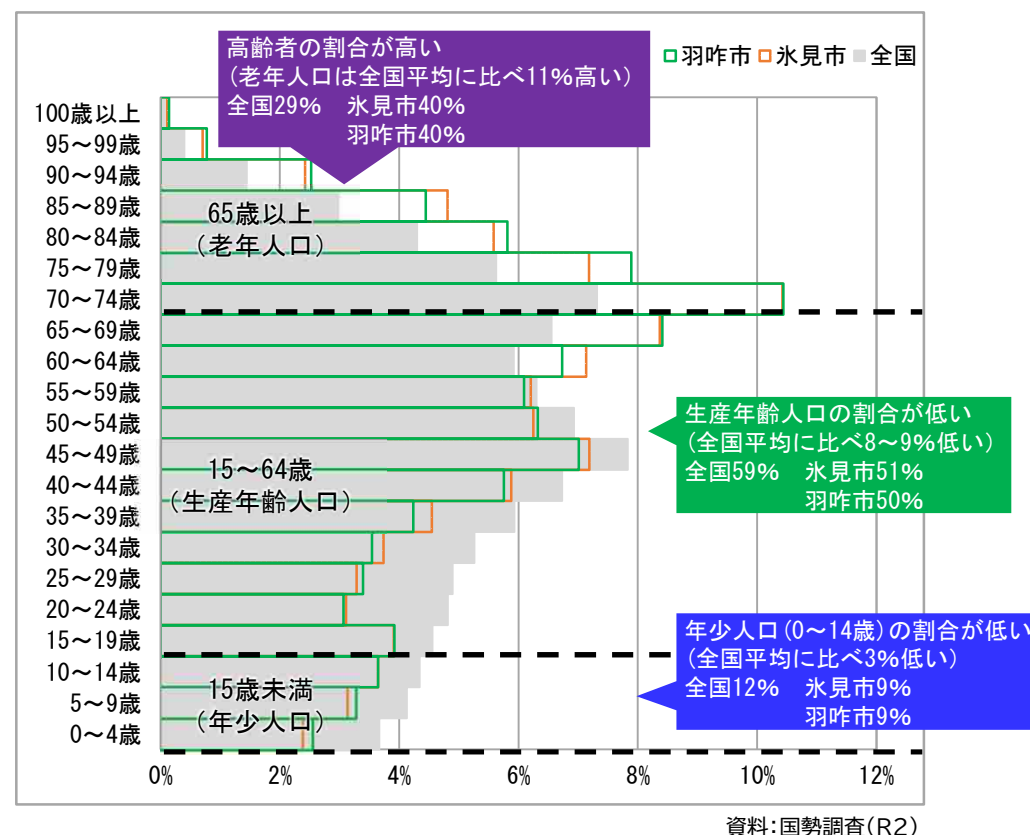
資料:実績値:国勢調査(H7,H12,H17,H22,H27,R2)
予測値:「日本の地域別将来推移人口」国立社会保障・人口問題研究所(R5推計)

■高齢者の割合の推移



資料:実績値:国勢調査(H7,H12,H17,H22,H27,R2)
予測値:「日本の地域別将来推移人口」国立社会保障・人口問題研究所(R5推計)

■年齢別人口割合

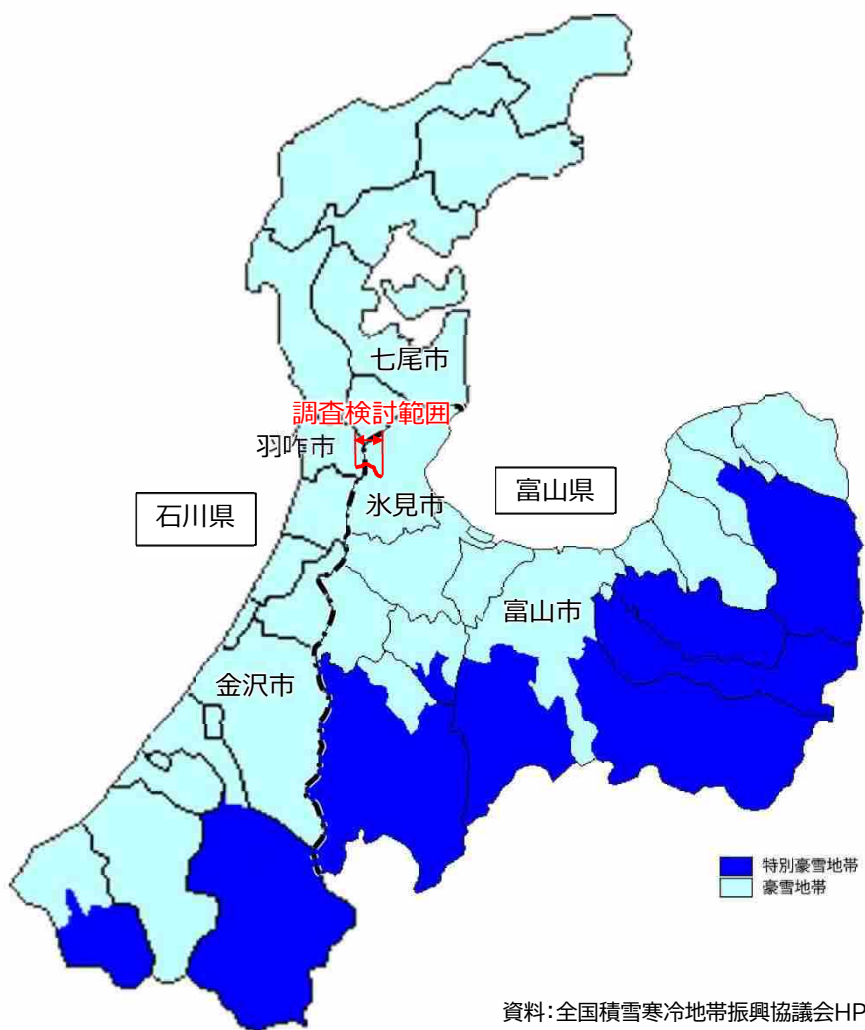


(2) 気象条件

- 氷見市・七尾市を含む周辺地域は豪雪地帯に指定されている。
- 氷見市・七尾市の年間累計降雪量は、2.5m以上と金沢市より多い。

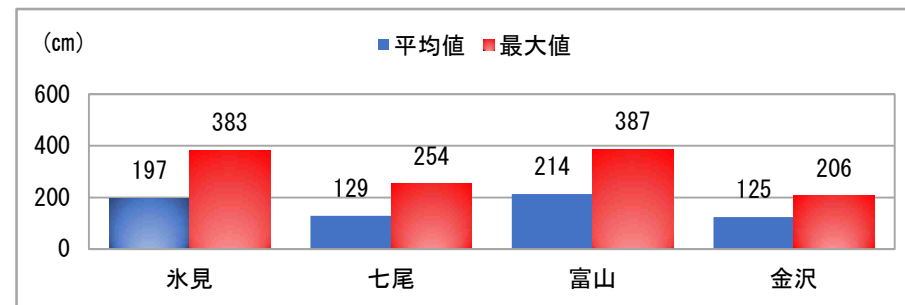
※羽咋観測所では降雪を観測されていない

■ 豪雪地帯の指定状況

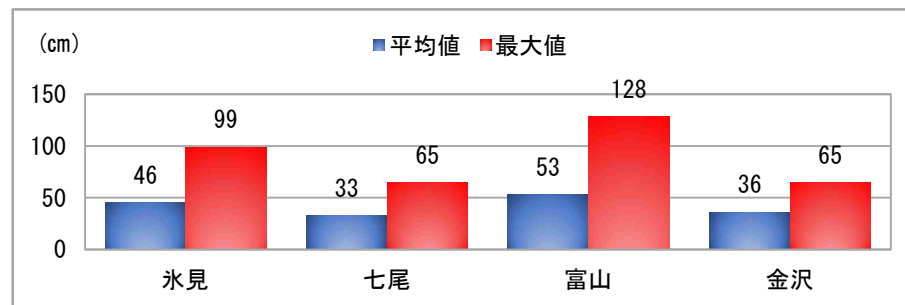


■ 降雪量・積雪深

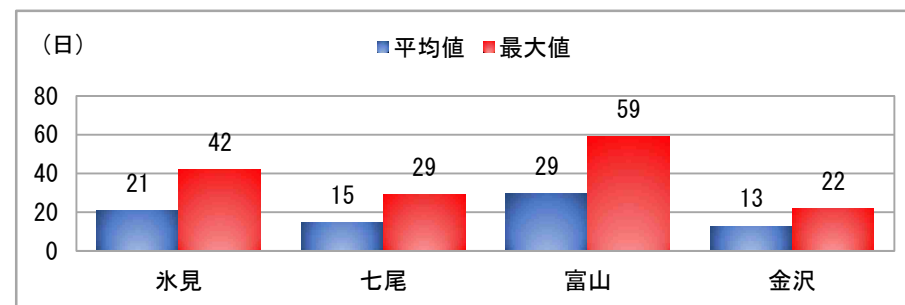
< 年間累計降雪量 (R2～R6 平均値・最大値) >



< 最深積雪深 (R2～R6 平均値・最大値) >



< 積雪深10cm以上の日数 (R2～R6 平均値・最大値) >

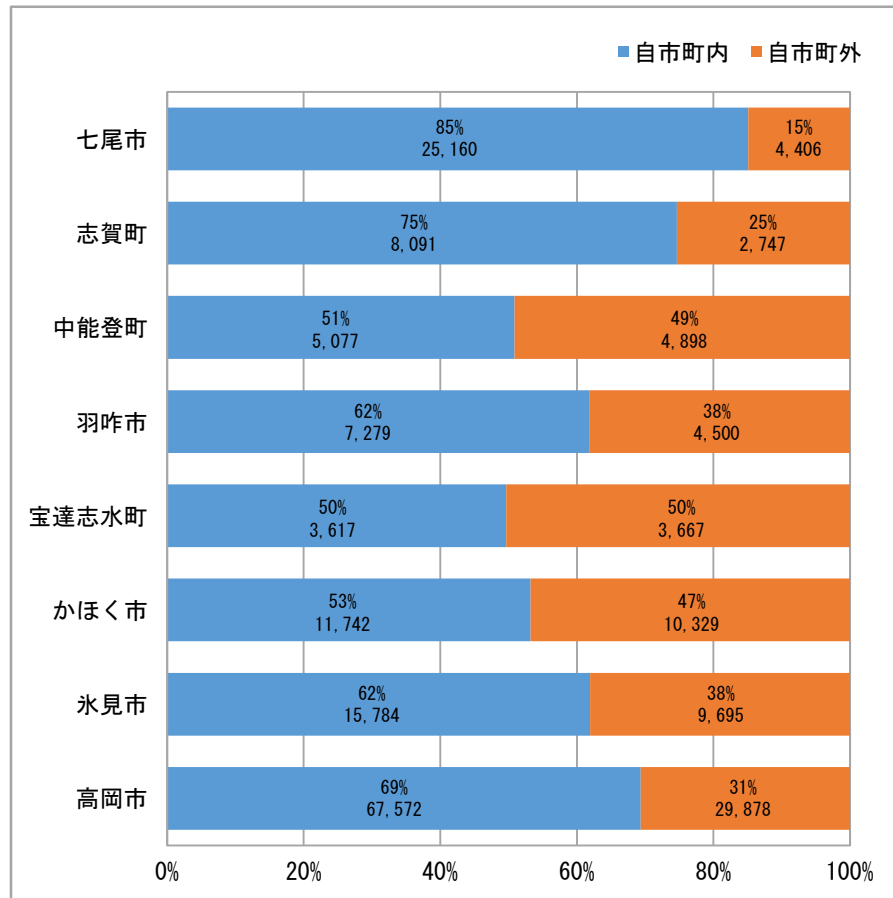


資料：気象庁HP

(3)通勤・通学

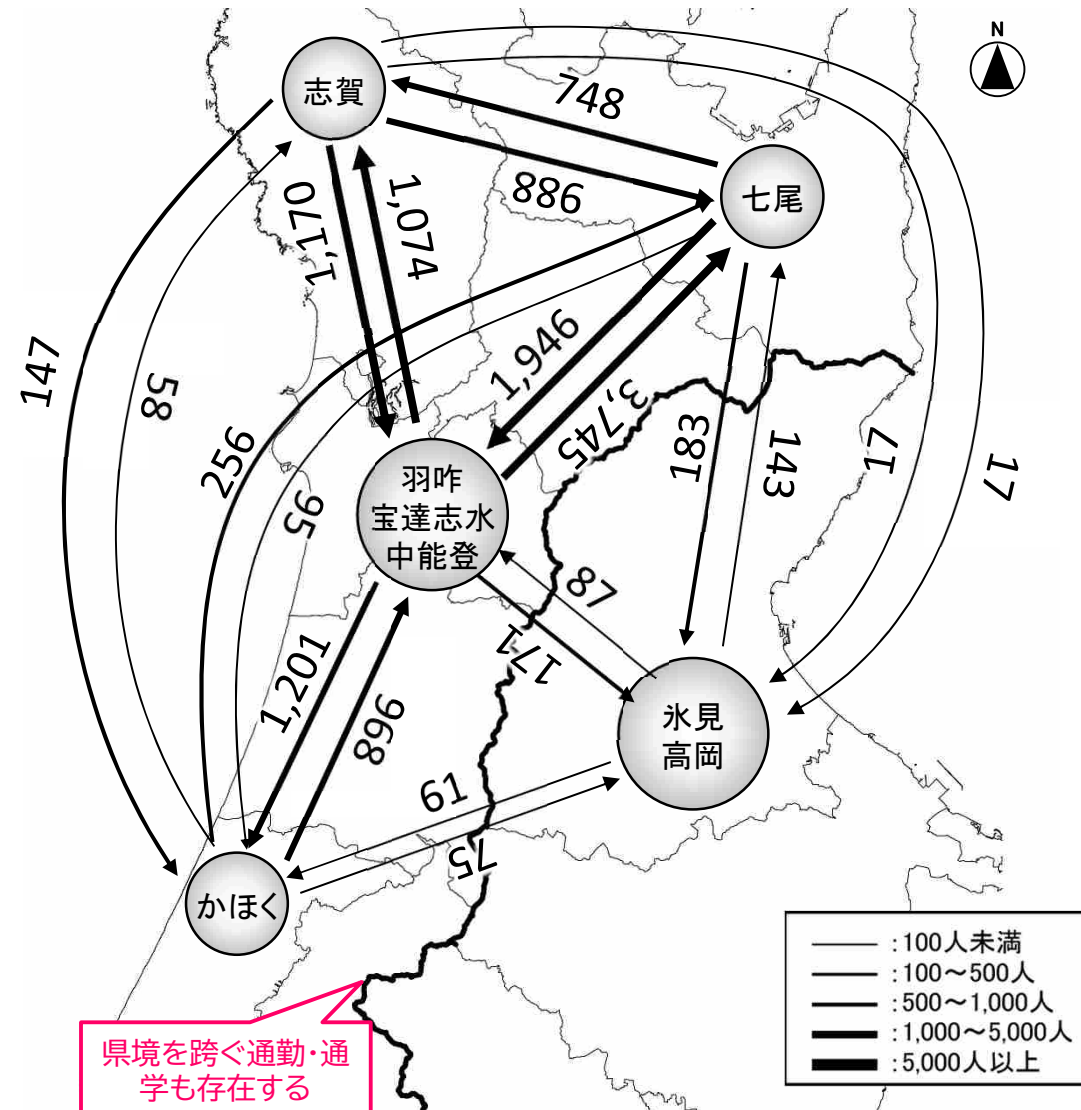
- 氷見・能登地域のうち、中能登町、羽咋市、宝達志水町、かほく市、氷見市は、約3割が自市町外に通勤・通学する。
- 自県内での通勤・通学が大半を占めるが、県境を跨ぐ通勤・通学も存在する。

■自市町外に通勤・通学する人の割合



資料：令和2年国勢調査

■通勤通学動態

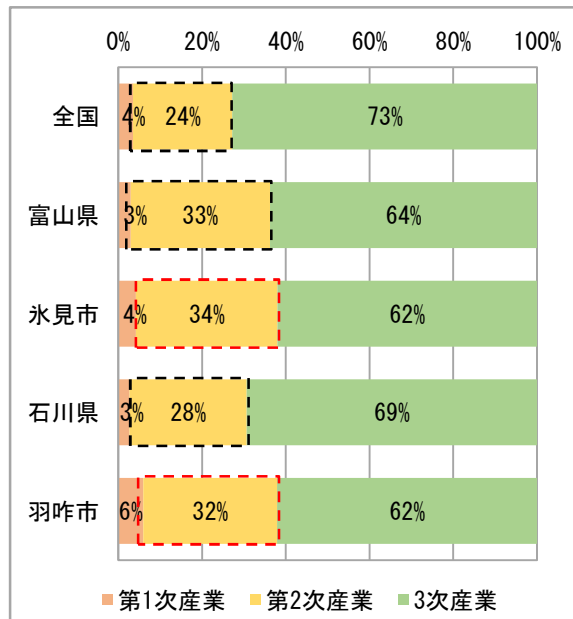


資料：令和2年国勢調査

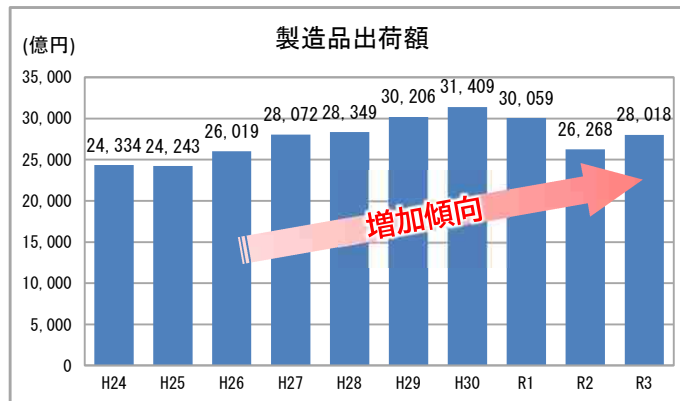
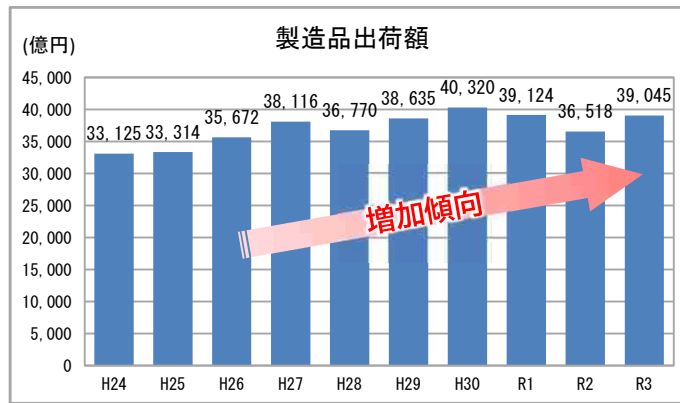
(4) 産業

- 氷見市・羽咋市は、2次就業人口の割合が高く、製造品出荷額は増加傾向にある。
- 羽咋市を中心とするエリアは国道415号を經由し、能越自動車道(氷見IC)を利用されているが、調査検討範囲である県境部が未改良のため、安定的な輸送ルートが形成されていない。

■就業人口

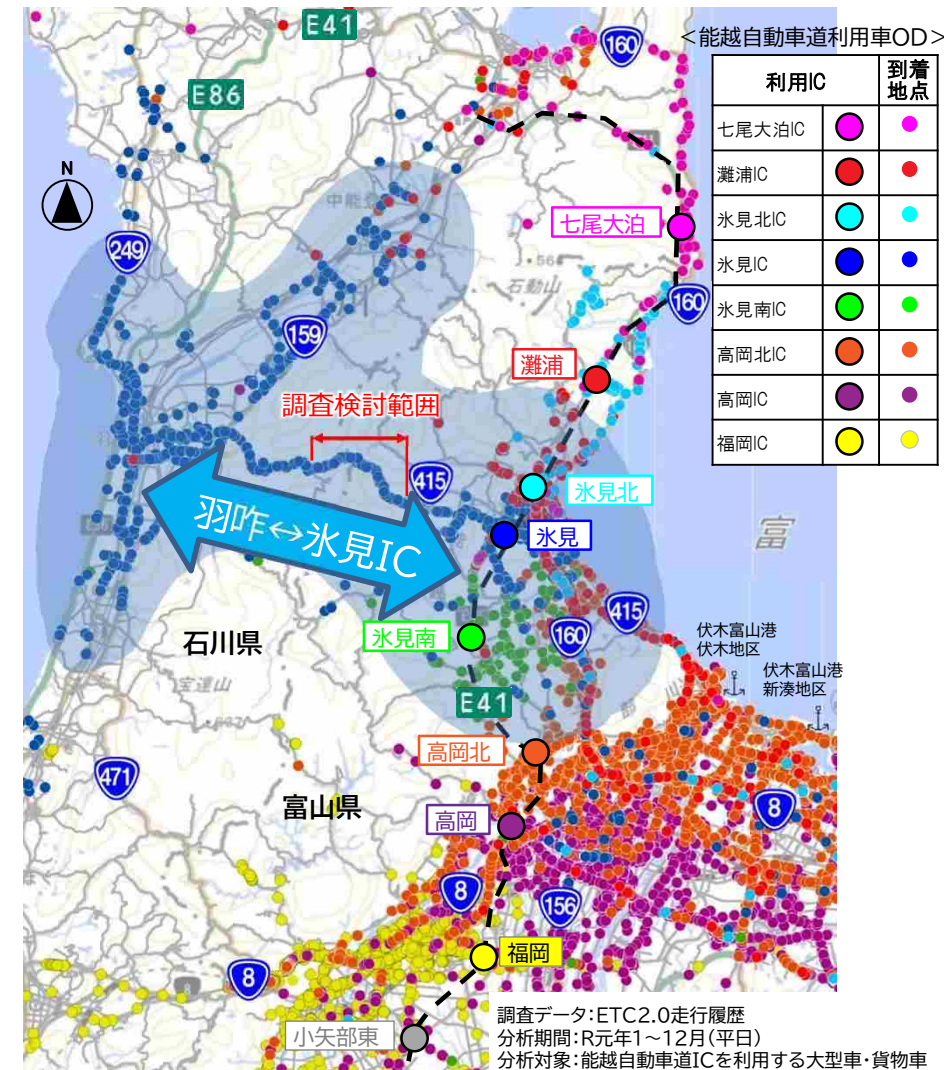


■工業(製造品出荷額の推移)



資料：工業統計調査、経済センサス活動調査、経済構造実態調査

■能越自動車道各ICからの到着地点分布(貨物車)



(5)観光

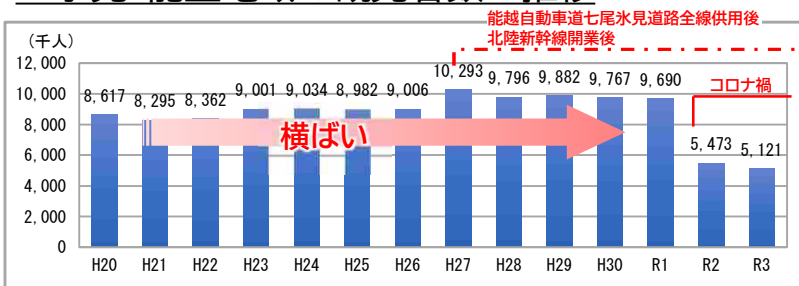
- 氷見・能登地域には、多くの観光施設が存在しているが、能越自動車道七尾氷見道路全線供用後、北陸新幹線開業後の観光者数の増加は限定的。
- 北陸新幹線の開業効果を地域全体に波及させていくためには、観光拠点を結ぶ信頼性の高い周遊ネットワークの形成が必要。

■観光施設立地状況



出典：ほっと石川旅ねっと(石川県観光連盟)

■氷見・能登地域の観光者数の推移



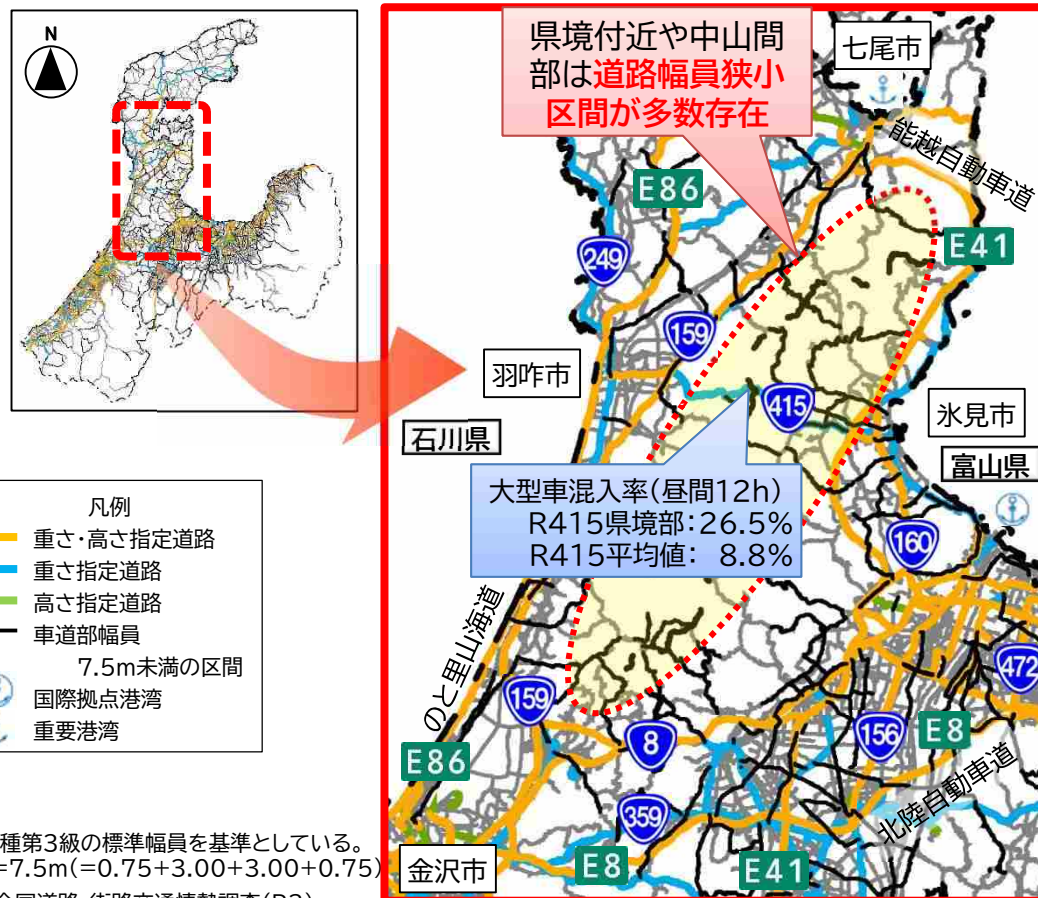
出典：富山県観光客入込数等(富山県観光・交通振興局)
統計からみた石川県の観光(石川県観光戦略推進部)



(6) 現況道路ネットワーク

- 県境を通過する路線は、道路幅員狭小区間(W=7.5m未満)が存在しており、大型車同士のすれ違いが困難。
- 国土交通省では、平常時・災害時を問わない安定的な輸送を確保するため重要物流道路の指定を行っており、北陸自動車道、能越自動車道、のと里山海道、国道8号・159号が重要物流道路に指定済。
- 能登半島には、七尾港、羽咋北部工業団地や能登中核工業団地などの交通・物流拠点が多数立地するが、重要物流道路がない空白地帯が存在。

■ 重さ・高さ指定道路と道路幅員(車道部幅員W=7.5m未満※)

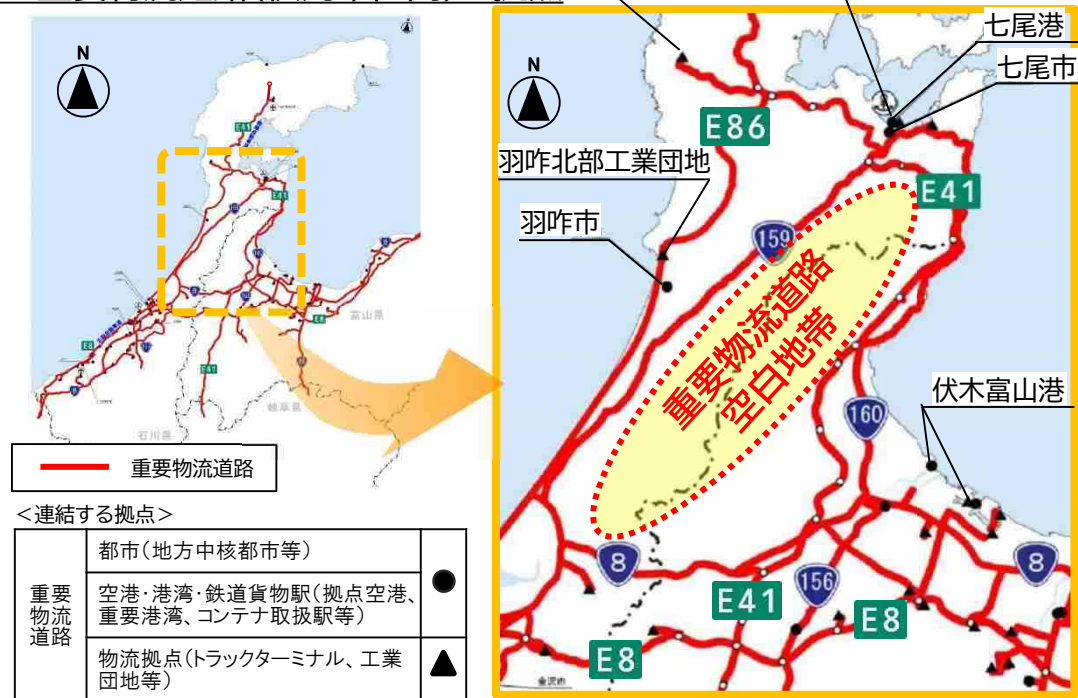


※第3種第3級の標準幅員を基準としている。
W=7.5m(=0.75+3.00+3.00+0.75)

資料: 全国道路・街路交通情勢調査(R3)
国土交通省関東地方整備局HP

(http://www.ktr.mlit.go.jp/road/sinsei/road_sinsei00000026.html)

■ 重要物流道路(供用中区間)と拠点



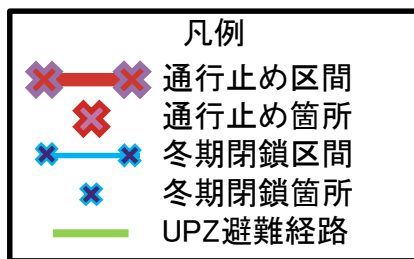
- 羽咋市の漁港などで獲れた魚介類や岩牡蠣の輸送で富山及び関東方面へ行くには、大型貨物車同士のすれ違いが難しく曲がりくねっている国道415号も利用している。
- 雨や雪などにより同路線で災害の心配があるような場合は能越自動車道の七尾市周り、北陸自動車道の金沢市森本周りで迂回している。

資料: 羽咋市商工会ヒアリング (R3.12)



(7)防災(令和6年能登半島地震)

- 富山県内では、国道359号で大規模な斜面崩壊が発生したほか、国道304号・415号は液状化に伴う地盤沈下が発生。その他の県管理道路においても、車道・歩道に亀裂・段差等が多数発生。
- 石川県内では、能越自動車道・のと里山海道に大規模な斜面崩壊が発生。その他の県管理道路においても車道・歩道に亀裂・段差が多数発生。
- 国道415号は、UPZ※圏内から避難する車両、大津波警報から避難する車両が利用。
- 災害時のアクセス性や信頼性が求められることから、緊急時の避難及び代替経路を確保するための道路ネットワーク構築が必要。



資料：原子力防災のしおり（石川県）
羽咋市広域避難計画（原子力災害）
原子力防災について（氷見市）



※UPZ：緊急時防護措置(避難等)を準備する区域(概ね30km)
(出典：国立研究開発法人日本原子力研究開発機構)



(7)防災(大雪)

- 令和6年1月23日、強い寒気による大雪のため、北陸自動車道、国道8号、国道304号において集中除雪作業による通行止めを実施。
- 迂回車両が国道415号、国道471号等に流入し、スタック車両による車線閉塞が発生。

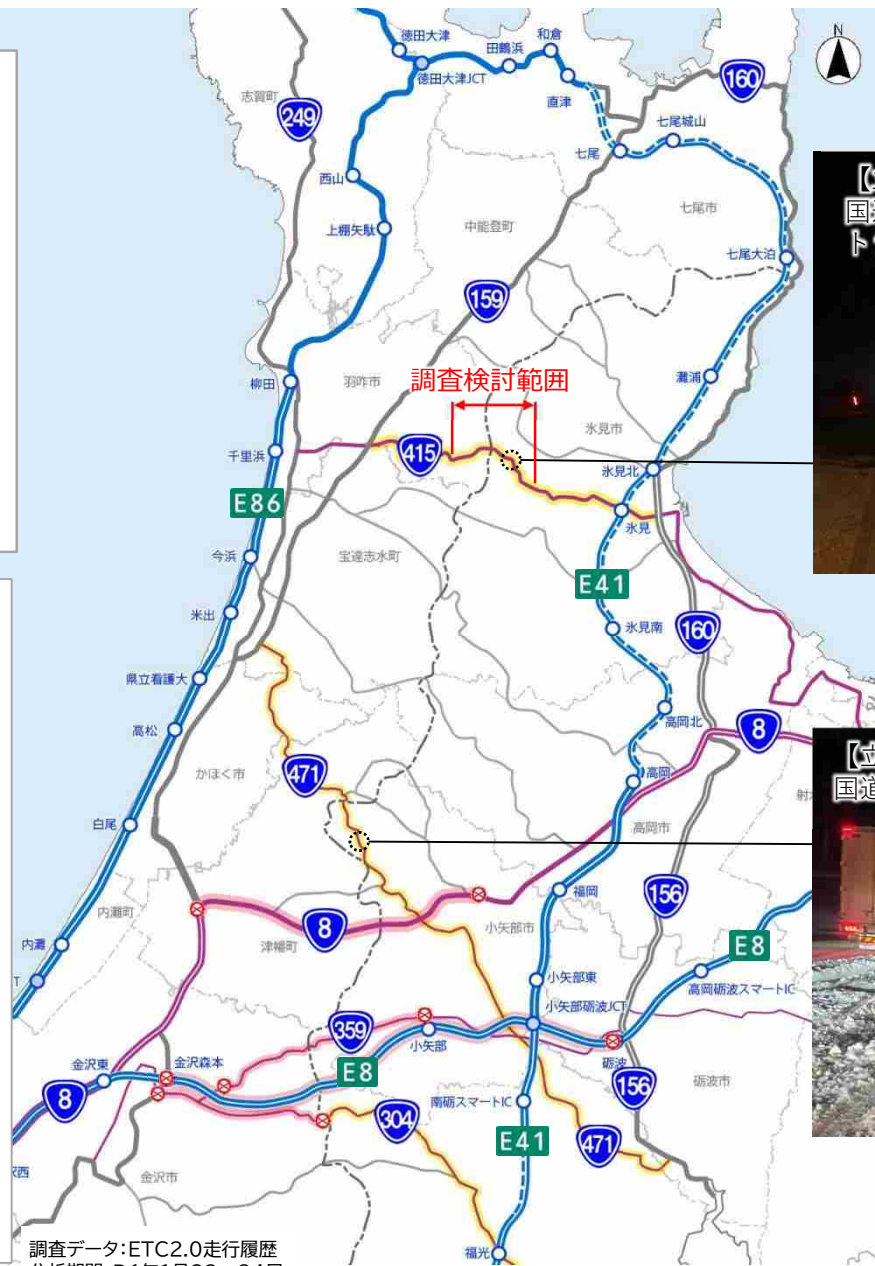
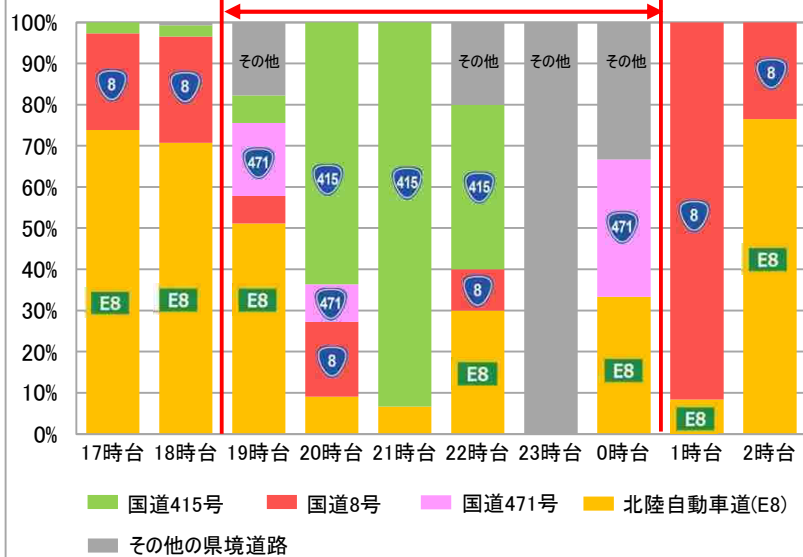
令和6年1月23日～24日の通行止め時系列

北陸自動車道	通行止め（集中除雪）	通行可能→
国道8号	通行止め（集中除雪）	通行可能→
国道304号	通行止め（集中除雪）	通行可能→
国道359号	通行止め（令和6年能登半島地震被災）	
国道415号	通行可能→ ●立ち往生発生	
国道471号	通行可能→ 立ち往生発生	

19:00 20:00 21:00 22:00 23:00 0:00 1:00 2:00
1月23日 1月24日

令和6年1月23日～24日の県境道路の利用割合

北陸自動車道・国道8号・国道304号通行止め



(8)地質の特徴

- 富山石川県境周辺は、地すべり地形が密集する日本でも有数地帯。
- 富山県側の地すべりは、明治12年から記録があり、特に明治42年の地すべりは氷見市論田、熊無地区全域に渡る規模で発生。
- 近年では平成14年に「論田地すべり」、平成25年に「論田斜面崩壊」が発生。
- 調査検討範囲のルート帯に影響するため、ルート帯の検討・施工には注意が必要。



資料 防災科学技術研究所 地すべり地形分布図（50%透過で電子国土web標準地図を表示）に加筆

神子原町については図に示されている大規模地すべりの移動土塊は浸食され、現在は二次的な地すべりがごく小規模の地すべりが主体と指摘※1



・ 秋雨前線による長雨を誘因とする地すべり



・ 秋雨前線による長雨を誘因とする地すべり



・ 短時間による大雨を誘因とする斜面崩壊

※1 黒田和男、能登半島基部地すべり地帯の地形発達について、公益社団法人日本地すべり学会地すべり1巻2号、p18、1964

※2 社団法人日本地すべり学会、地すべり2003とやま実行委員会 監修・発行 とやまの地すべり2003

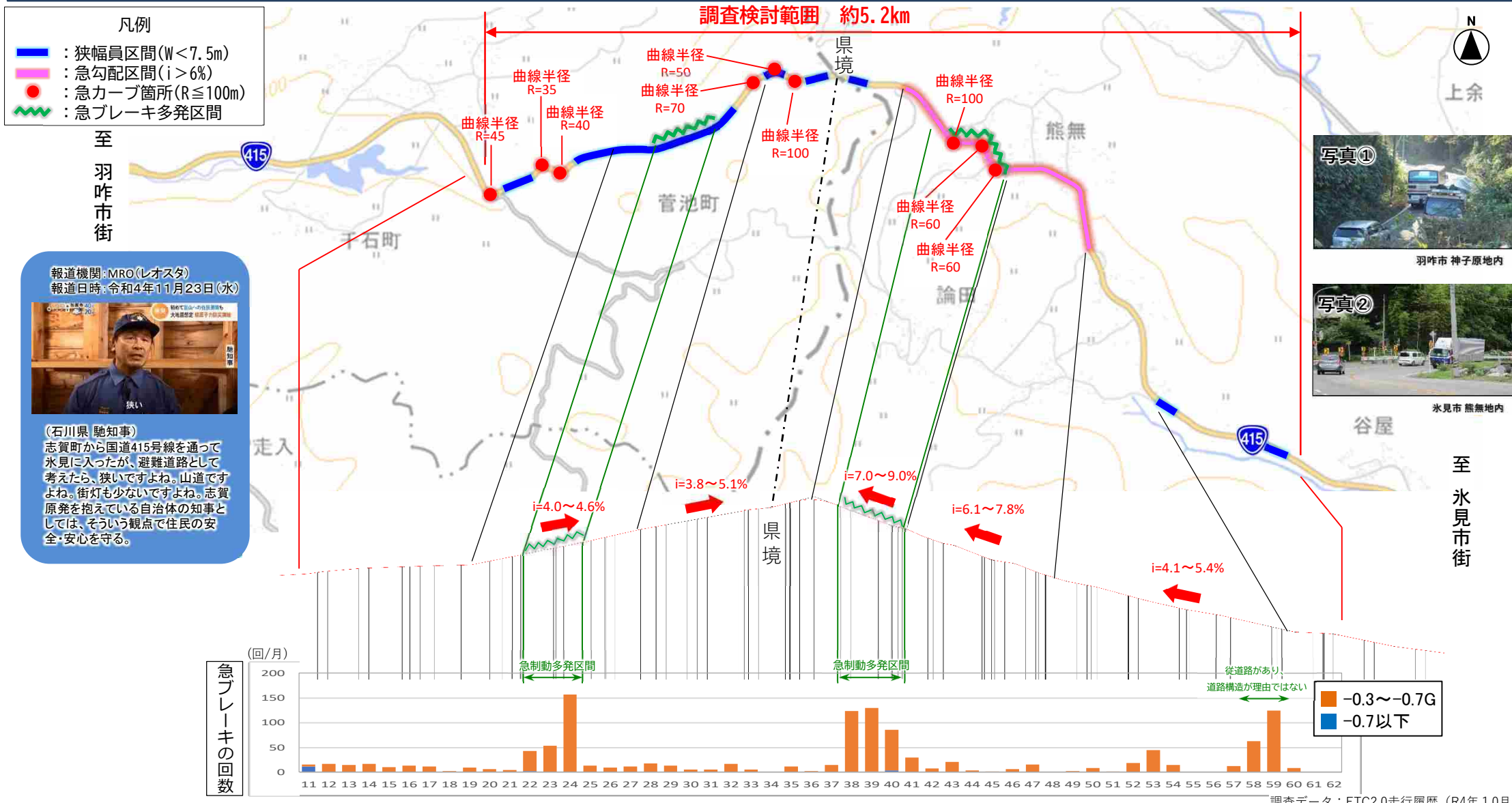
※3 日本地すべり学会、地すべり、第39巻3号

※4 高岡土木センター 氷見土木事務所

4. 道路交通の現状と課題

(1) 道路構造の課題

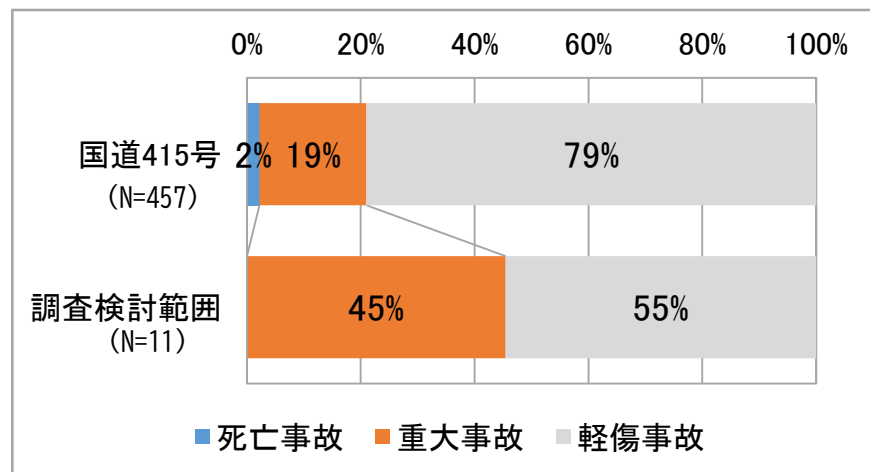
- 調査検討範囲は山間地であり、縦断勾配6%超が約2割(855m)存在し、うち約90mは縦断勾配9%の急勾配。
- 曲線半径100m以下が9箇所、うち4箇所は曲線半径50m以下の急カーブ。
- 幅員7.5m未満の区間が約4割(1,924m)。
- 道路構造に起因すると思われる急ブレーキが多く発生。



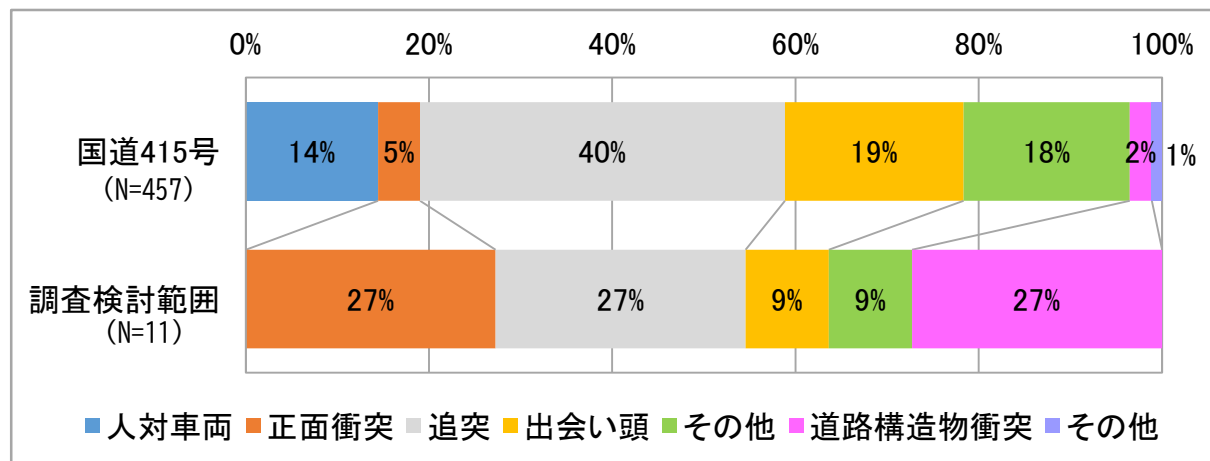
(2)事故

- 調査検討範囲の重大事故発生割合は、国道415号全線に比べて2倍以上高い。
- 調査検討範囲の事故発生時の路面状況は、国道415号全線に比べて積雪状態の割合が高い。
- 調査検討範囲の正面衝突と道路構造物衝突の発生割合は、国道415号全線に比べて5～10倍と非常に高い。

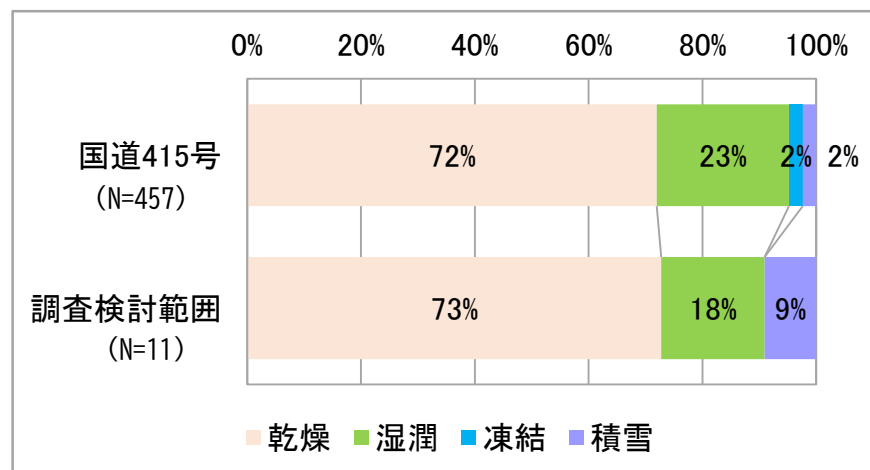
■重大事故の発生状況



■事故類型別構成比



■事故発生時の路面状況



5. 政策目標の設定

(1)地域及び道路交通の現状と課題とその原因のまとめ

	現状と課題	原因
地域について	【地域交通】 ◆ 国道415号は、通勤・通学等の日常生活でも利用されているが、急勾配区間・急カーブが存在するため、十分な安全性が確保されていない。	◆ 道路幾何構造(道路幅員、縦断線形、平面線形)の不良 ◆ 広域交通体系への安定的なアクセスルートが不足
	【産業】 ◆ 国道415号は、広域交通を分担する能越自動車道とのと里山海道を接続する重要な道路であるが、安定的な輸送ルートとはいえず、産業の活性化に向けて信頼性の高い輸送ルートの形成が必要。	
	【観光】 ◆ 氷見・能登地域には、多くの観光施設が存在しているが、北陸新幹線開業後の観光者数の増加は限定的であり、開業効果を地域全体に波及させていくためには、円滑な周遊ネットワークの形成が必要。	
道路交通について	【道路の現況】 ◆ 国道415号の道路幅員狭小区間では大型車同士のすれ違いが困難。 ◆ 急勾配区間・急カーブが多く、走行性が低下。 ◆ 冬期は、降雪等による路面状態悪化に伴い、走行性が更に低下。	◆ 道路幾何構造(道路幅員、縦断線形、平面線形)の不良 ◆ 代替路が大規模迂回となる脆弱なネットワーク
	【防災・迂回】 ◆ 国道415号は、第二次緊急輸送道路かつ志賀原発UPZからの避難経路に指定されているが、大きな地すべり地帯を通過するため、災害発生時の寸断が懸念される。 ◆ 国道415号が通行できない場合、能越自動車道や国道8号・北陸自動車道への大きな迂回を強いられる。	
	【交通事故】 ◆ 調査検討範囲の死傷事故は、正面衝突や工作物衝突の割合が高く、国道415号全線に比べて重大事故割合が高い。	

(2)地域の将来像(富山県 元気とやま創造計画 -とやま新時代へ 新たな挑戦-)

- 富山県の最上位の行政計画である「元気とやま創造計画」は、「みんなで創ろう！ 人が輝く 元気とやま新時代 — 活力、未来、安心のふるさと —」を基本理念とし、平成30年に策定。

② 目指すべき将来像と計画の基本理念(目標)

- 「元気とやま創造計画」、「新・元気とやま創造計画」では、富山県の目指すべき将来像として、「活力とやま」「未来とやま」「安心とやま」を設定し、県民誰もが、自らの個性や能力を発揮しながら、夢と希望を持っていきいきと働き、安心して暮らせる県の実現を図ってきました。
- これらの将来像については、社会経済情勢が大

きく変化するなかにあっても揺るがない、県づくりの根本となる基本的方向を示すものであり、この計画においても、これら3つの目指すべき将来像を引き続き堅持します。そして、先に示した県づくりの視点など新しい観点も盛り込みながら、時代の変化に対応した政策を展開し、富山県の一層の発展を図っていきます。

活力とやま	未来とやま	安心とやま
● 勤勉で進取の気性に富む人材、恵まれた自然、歴史・文化、交通・情報通信基盤、産業集積などを活かし、創意工夫、意欲ある取組みが展開されている「活力」あふれる県	● 明日を担う人材が健やかに育まれ、文化・スポーツの振興など多彩な県民活動、ふるさとの魅力を活かした地域づくりが進められている「未来」への希望に満ちた県	● 豊かな自然や生活環境を活かし、住み慣れた地域の中で、健康で快適に、安全で「安心」して暮らせる県

- 富山県は、半世紀近くにわたる県民の悲願であった北陸新幹線が開業し、新時代へ飛躍する大きなチャンスを迎えています。
- 本県は、美しい自然と調和のとれた豊かな環境、特色ある文化、日本海側屈指の多様な工業集積などを有し、また、厳しい風土に揉まれながら、勤勉で粘り強い県民性や積極進取の気性、豊かな創造力とたくましい行動力が育まれてきました。
- 今こそ県と県民、企業、地域の団体、市町村など様々な主体が一体となり、本県の持つ自然、歴史、文化、産業の強みを活かし、そして県民のパワーを結集して新しい県づくりに向けた取組みを力強く進めていくことが何よりも重要です。
- この計画では、これからの県づくりの視点として「新たな価値創出」、「グローバル新時代」、「ふるさと」、「人づくり」の4つを提示し、これを踏まえた「活力とやま」、「未来とやま」、「安心とやま」の3つの将来像の実現を目指していますが、何よりも県づく

- りの主役である県民一人ひとりが、若い人から高齢者まで、男性も女性も障害の有無にかかわらず、生涯にわたって高い志を胸に健康でいきいきと輝いて学び、働き、暮らしていくことによって、元気なふるさと富山県の実現が可能となると考えます。
- これから、本格的な人口減少社会に突入していきますが、将来に向けて希望を持って新時代の富山県を切り拓いていこうとする決意で県民の皆さんと一緒に県づくりを進めていきます。
- このため、この計画では、

「みんなで創ろう！ 人が輝く 元気とやま新時代 — 活力、未来、安心のふるさと —」

を計画の基本理念(目標)として、「活力」、「未来」、「安心」のふるさとづくりを推進することとし、これを県民の皆さんと意識と行動を共有できる基本的なメッセージとします。

基本理念(目標)

みんなで創ろう！ 人が輝く 元気とやま新時代
— 活力、未来、安心のふるさと —

活力とやま

アルミ関連産業や高岡銅器等の伝統産業の振興を図るとともに、県ものづくり研究開発センター、総合デザインセンター等を中心に、産学官共同研究開発から販路開拓まで総合支援を進めます。

- 地域産業の振興(アルミ、鋳物、鉄鋼等金属製品、食料品・飲料、化学等)
[国内外に誇る特色ある製品] マグネシウム・ダイキャスト製品、超大型樹脂成型システム等
- 伝統産業の振興(高岡銅器・漆器・仏具・菅笠等)
- 産学官連携体制の強化(県産業技術研究開発センターものづくり研究開発センター〈高岡市〉、県立大学及び県事業総合研究開発センター〈射水市〉等)
- 総合デザインセンター等を中心とした商品開発企画から販路開拓までの総合的な支援や本県の優れた工芸の魅力発信、周辺の民間企業と連携したデザイン交流ゾーンの形成
- 職業訓練の推進(富山職業能力開発促進センター等)

白ねぎやブリ、ペニズワイガニなど、付加価値の高い特色ある農林水産業の振興と、生産力、ブランド力の強化を進めます。

- 特色ある農林水産業の振興、持続可能な漁業の推進とブランド力の強化(野菜集出荷施設、農産物直売所の活用、漁港等の水産流通基盤の整備、定置網漁業、栽培漁業の推進)
[農産物] 白ねぎ、ほうれんそう、こまつな、梨、りんご、えだまめ、チューリップ(球根・切花)、ハトムギ、たけのこ、ヘチマ、にんじん、いちご等
[水産物] ブリ、シロエビ、ホタルイカ、バイ、ペニズワイガニ(高志の紅ガニ)、アユ、サクラマス等
[畜産物] 乳製品、氷見牛など肉製品等
[加工品など] 高岡コロッケ、かまぼこ、氷見はとむぎ茶等
- 農地の大区画化・汎用化や農業水利施設の高機能化整備の推進

北陸新幹線新高岡駅を核とした広域的な交通基盤の整備や、伏木富山港(伏木、新湊地区)の港湾機能の充実、交通アクセスの向上等により、交通ネットワークの充実と地域の活性化を図ります。

- 北陸新幹線「新高岡駅」の利用促進
- 新高岡駅及び高岡駅の駅周辺及びアクセス道路の整備等の交通結節機能の充実
- 新高岡駅及び高岡駅を核とした地域公共交通ネットワークの充実(城端線、氷見線、あいの風とやま鉄道、万葉線、バス等)
- あいの風とやま鉄道「高岡やぶなみ駅」の駅周辺公共施設等の整備
- 公共交通機関相互の乗継ぎの円滑化
- 東海北陸自動車道の全線4車線化、能越自動車道の整備の推進
- 地域高規格道路の整備(富山高岡連絡道路、高岡環状道路)
- 道路ネットワークの整備と活用(国道、県道、都市計画道路等)
- 日本海側の総合的拠点港である国際拠点港湾伏木富山港(伏木地区、新湊地区)の港湾機能や周辺環境整備の充実、鉄道や幹線道路から港湾までのアクセスの改善、国際定期航路の充実

富山湾などの恵まれた自然景観や歴史・伝統文化等の観光資源を磨き上げ、滞在・体験型観光の推進を図るとともに、地域のブランド力アップを目指します。

- 観光資源の活用(ユネスコ無形文化遺産登録「高岡御車山祭」をはじめ新湊曳山祭など各地の曳山行事、国宝瑞龍寺、重要文化財興隆寺、「越中万葉」の歌碑や万葉歴史館などの歴史的文化資源、日本遺産に認定された高岡の伝統あるまち並み、まんがロードやキャラクター電車などのアニメコンテンツ、富山湾越しに見た立山連峰などの自然景観、氷見温泉郷、ひみ番屋街、内川、海王丸パーク、新湊大橋、新湊マリナ等の活用、わくライナー・富山ぶりにバスの運行支援等)
- 滞在・体験型観光の推進(銅器、漆器などの伝統産業の見学やものづくり体験などの産業観光や地引き網体験、港町、里山における生活体験等)
- 「世界で最も美しい富山湾」の活用・保全(サイクリングやマリンスポーツ等の魅力ある環境を活かした誘客促進、クルーズ客船の寄港促進、新湊マリナへの県外船舶オーナーの誘致促進等)



万葉線(高岡市、射水市)



新湊大橋と海王丸(射水市)

地域別の
特性と取組み

Ⅱ 地域別の方
向 高岡・射水地域

(2)地域の将来像(氷見市総合計画)

- 氷見市の最上位計画である氷見市総合計画は、「人 自然 食 文化で未来を拓く交流都市 ひみ」を目指す都市像として令和4年3月に策定。

1 計画策定の趣旨

氷見市では、2012年度(平成24年度)を初年度とする「第8次氷見市総合計画」を策定し、「人 自然 食を未来につなぐ交流都市 ひみ」の実現に向けて、市民と行政が力を合わせてまちづくりに取り組んできました。

この間、気候変動に伴う自然災害の激甚化、少子・高齢化の更なる進行、持続可能な循環型社会の構築、デジタル変革の加速による新たな日常の構築など、我々を取り巻く社会情勢は大きく変化しています。

こうした中、これまでの成果を発展させ、市内外の動向に的確に対応するとともに、行政・市民・地域・団体・企業が一体となって、より良い氷見市を築き、将来の世代に引き継いでいくため、新たな時代の持続可能なまちづくりの方向性を明らかにすることを目的に、これから10年間の新たなまちづくりの指針として「第9次氷見市総合計画」(以下「本計画」とする。)を策定します。

2 計画の役割

本計画は、本市の将来都市像及びそれを実現するための施策の大綱を明らかにするもので、次に掲げる役割を担っています。

- ① 市民が主役となるまちづくりの方向性を明らかにしたものです。
- ② 長期的な市政運営のめざす目標を明らかにし、市民とともに主体的かつ計画的にまちづくりに取り組む上での指針となるものです。
- ③ 国、県、連携市等に対しては、計画の実現に向けた連携や本市の役割を明確にする上で施策を明らかにするものです。

第3項 利便性の高い道路網の整備

現状と課題

- 防災や安全確保の観点から、重要物流道路である能越自動車道の全線4車線化や、国道160号の防災対策優先区間の事前通行規制基準緩和などに向けた整備が求められています。
- 能越自動車道の市内区間全線開通による機能を有効活用するため、能越自動車道から幹線道路につながる新たな道路網の整備が必要となっています。
- 本市の生活道路は、幅員が狭く、また屈曲するなど、改良を必要とする道路が多く、安全に通行できるように道路の線形改良、拡幅などの機能的な道路ネットワークを構成する道路整備が不可欠です。
- 社会環境の変化等に伴い、より安全で快適な歩行者空間などの道路環境の整備が求められています。
- 地域と協働して取り組んできた草刈による道路維持管理が、人口減少に伴って、これまでの水準を維持していくことが難しくなっています。

主要施策

(1) 幹線道路の整備の充実

- 能越自動車道の4車線化の整備を促進するとともに、国道160号及び415号の整備を促進して、道路交通の安全性及び円滑化を図ります。また、基幹となる道路から各地域をつなぐ幹線道路網の整備により道路ネットワークの構築を図ります。
 - ・能越自動車道の整備の促進
 - ・国道の整備の促進
 - ・主要地方道等の整備
 - ・市幹線道路等の整備

(2)地域の将来像(氷見市都市計画マスタープラン)

- 氷見市都市計画マスタープラン(2019年3月改定)において、国道415号は市内外の交流促進に向けた都市間連携軸に位置づけられている。

【整備方針】

①道路ネットワーク

- ・ 市内外の交流促進に向け、広域的な交通ネットワークである能越自動車道や国道160号・国道415号の整備促進とともに、市街地と生活拠点を結ぶ道路の整備・充実を図ります。
- ・ 市民・事業者などとの協働による道路の維持管理や、予防保全型の維持管理による長寿命化により、ライフサイクルコストの縮減・標準化を図り、長期にわたって安全・安心な道路ネットワークの確保に努めます。

将来都市構造 (連携軸)	構成する主な路線	整備方針
広域連携軸	・ 能越自動車道	・ 4車線化の整備促進および機能の維持・充実を図ります。
都市間 連携軸	・ 国道160号、国道415号 ・ (主)氷見惣領志雄線、(主)高岡氷見線	・ 国道415号谷屋大野バイパスや県境部(熊無・神子原区間)の整備促進とともに、国道160号の雨量規制解除に向けて機能強化を図ります。 ・ 主要地方道の機能の維持・充実を図ります。
生活拠点 連携軸	・ (主)万尾脇方線、(主)氷見田鶴浜線 ・ (一)鹿西氷見線、(一)下田子島尾線、 (一)仏生寺太田線、(一)平阿尾線 ・ (市)環状北線、(市)環状南線、 (市)北八代堀田線 など	・ 市街地と生活拠点を結ぶ主要地方道や一般県道などの改良促進とともに、氷見南ICから市街地や既存の工業団地への円滑なアクセス道路の整備を推進します。
その他の路線	・ 市道や農道 など	・ 既存道路網の整備推進とともに、密集住宅地における狭隘道路や危険箇所の改善や安全な道路空間整備を推進します。

※ (主) 主要地方道、(一) 一般県道、(市) 市道

59



【連携軸に位置付ける道路ネットワークと整備方針図】

(2)地域の将来像(石川県成長戦略)

- 石川県の最上位の行政計画である「石川県成長戦略」は、「幸福度日本一に向けた石川の未来の創造～住みやすく、働きやすい、活力あふれる石川県の実現～」を基本目標とし、令和5年9月に策定。

1 策定の趣旨

石川県では、平成28年3月に「石川県長期構想」を策定し、「個性、交流、安心のふるさとづくり」を基本目標に、石川県が有する質の高い文化の土壌、高い技術を有するものづくり企業や高等教育機関の集積、豊かな自然環境などの強みを伸ばしながら、人口減少や少子高齢化などの課題克服に向けた取組を着実に進めてきました。

しかしながら、昨今の石川県を取り巻く社会経済情勢は、「石川県長期構想」の策定当時から大きく変化しており、社会のデジタル化やカーボンニュートラルの推進といった新たな時代の潮流に的確に対応しながら、新たな活力を創出し、石川県をさらに飛躍させていくことが必要となっております。

こうしたことから、これまで築きあげてきた石川の個性・魅力・基盤を継承し、さらに発展させることに加え、石川県の目指す姿から逆算し、石川県の進むべき方向性を示す新たな羅針盤として、「石川県成長戦略」を策定します。

2 戦略の位置づけ

「石川県成長戦略」は、石川県政運営の基本となるもので、県の施策の方向性を総合的かつ体系的にまとめた、石川県の最上位計画です。

なお、本戦略は、まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）に基づく「都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略」としての性格を併せ持ち、SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）の達成に寄与するものとして策定しております。

3 計画の期間

令和5（2023）年度から令和14（2032）年度までの10年間とし、策定から5年後を目途に中間評価を行い、必要に応じて見直します。

幹線道路ネットワークの強化

県土を隈なく網羅する幹線道路網整備や隣県へのアクセス強化など、人やものの交流を一層盛んにするため、幹線道路ネットワークを整備します。

- 細長い県土のさらなる一体化・高速化の促進（能越自動車道、のと里山海道4車線化、金沢外環状道路、加賀海浜産業道路など）
- 北陸新幹線でつながる北陸三県や岐阜県を結ぶ県際道路の整備（小松白川連絡道路、国道8号、国道415号、金沢湯涌福光線など）
- 鉄道、港湾、空港と道路との連携強化による人・ものの円滑な移動の確保（金沢外環状道路、加賀海浜産業道路など）
- 能登・金沢・加賀各地域の魅力ある観光地相互の連携強化による回遊性の向上（奥能登絶景海道、国道249号、加賀産業開発道路など）
- 緊急時の救急・支援活動を支える骨太で多重的な幹線道路ネットワークの確保（奥能登横断道路、中能登横断道路、七尾外環状道路など）



石川県の幹線道路網

(2)地域の将来像(羽咋市総合計画)

- 羽咋市の最上位計画である第6次羽咋市総合計画は、羽咋市市民憲章「やさしい人情の能登に住み、未来にひろがる日本海のようにたくましく生きようとめざす羽咋市民のちかいです」を基本理念に、令和3年5月に策定。

将来都市構造の基本的考え方

将来都市構造は、本市の都市的魅力を高め都市の骨格を形成し、物流や交流の中心となるとともに、都市の発展方向を明示するものです。

本市の都市計画マスタープランでは、市内を縦横断する道路ネットワーク整備状況や今後の整備計画、都市化動向などを勘案し、将来の都市構造の構成要素として、自然・地形的特性をもとに都市構造の面的広がりを成す「ゾーン」、現況の土地利用をもとに将来ニーズを見込んで集積を図る「拠点」、広域的な交流促進や拠点の連絡を強化し、都市の骨格を構成する「軸」を設定しています。

「軸」の方針

(1) 南北軸

- ①本市を南北に連絡する、のと里山海道や国道 159 号羽咋道路、国道 249 号などを位置づけます。
- ②南北に長い県土をつなぐ石川県の「ダブルラダー輝きの美知」構想に位置付けられた軸であり、金沢方面と能登地域の連絡機能を強化し、広域的な交流を促進するとともに、本市の中心都市拠点や工業拠点、観光・レクリエーション拠点、歴史・文化拠点の連絡強化を図ります。
- ③本市の活力の維持・創出のための重要な軸として、商業や流通機能などの強化を図ります。

(2) 東西軸

- ①本市を東西に連絡する国道 415 号羽咋バイパスや市道羽咋 286 号線などを位置づけます。
- ②能越自動車道とのアクセス性を高め、隣接する富山県や中京圏との広域的な交流を促進するとともに、本市の中心都市拠点や各拠点の連絡強化を図ります。
- ③車による往来の玄関口として、道の駅のと千里浜と神子原農林水産物加工販売施設(神子の里)を、地域振興および観光情報等の発信拠点と機能、連携させることにより、市内への回遊誘導を図ります。
- ④本市の活力を創出する重要な軸として、沿道土地利用のさらなる充実を図ります。



(2)地域の将来像(羽咋市都市計画マスタープラン)

- 羽咋市の都市の基本的な方針を定める「羽咋市都市計画マスタープラン」を平成25年3月に策定。

5) 田園地区

- 農地については、集落地などと調和した田園地区として保全・維持する。

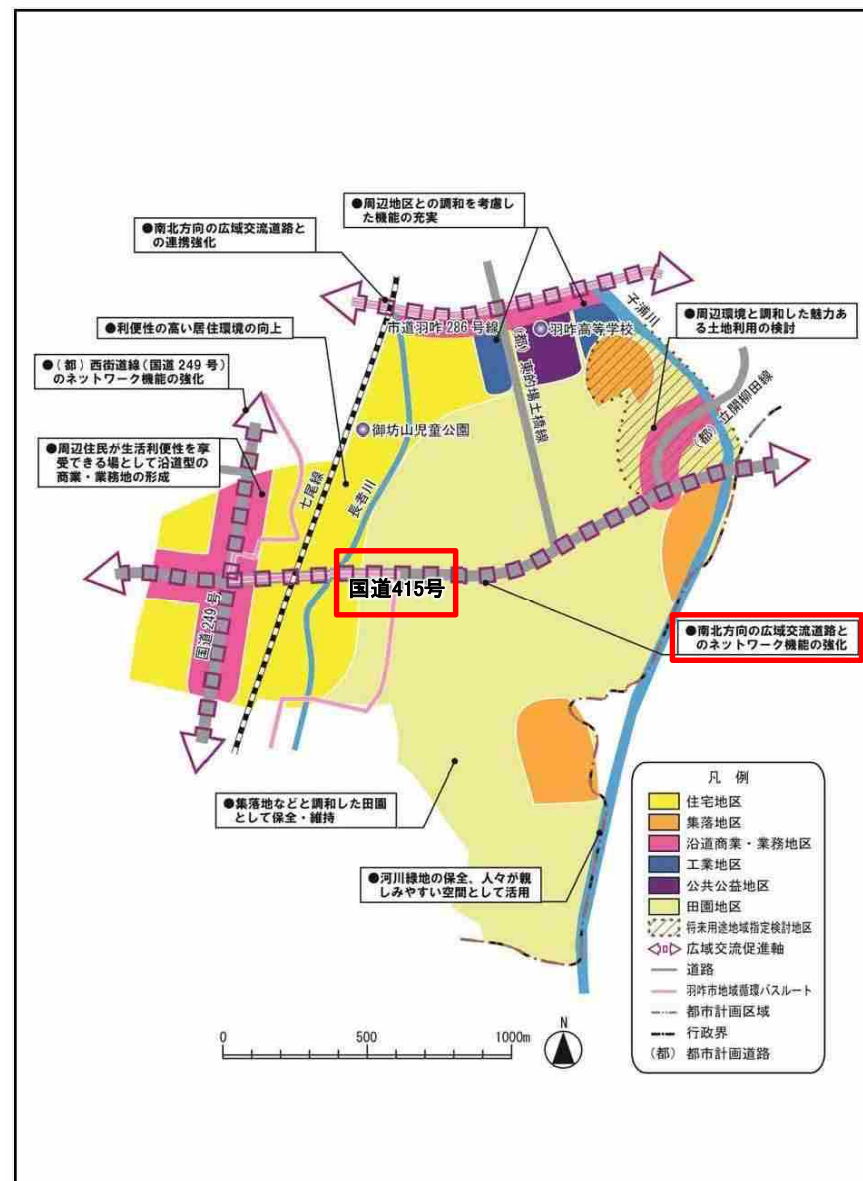


国道415号沿いに広がる優良農地

(2) 交通施設整備の方針

1) 広域交流道路

- 国道249号は、南北に長い県土をつなぎ、能登地域の広域交流ネットワークや金沢方面との連携および地域の各拠点を連絡する南北道路であり、羽咋市の活力を維持・創出する重要な道路として、ネットワーク機能の強化を図る。
- 国道249号は第一次緊急輸送道路、国道415号は第二次緊急輸送道路であり、地域間相互や高次医療機関との連携強化を図る。
- 国道415号、市道羽咋286号線は、隣接する富山県や中京圏との広域的な交流を促進する東西道路であり、地域の各拠点を連絡し、羽咋市の活力を維持・創出する重要な道路として、ネットワーク機能の強化を図る。
- 国道249号、市道羽咋286号線などは、商業等の沿道利用を考慮するとともに、安全で快適な走行性が確保された道路として機能強化を図る。



【中央部南地域 地域方針図】

●富山県は、物流上重要な道路輸送網「重要物流道路制度」の創設を契機として、新たな国土構造の形成、グローバル化、国土強靱化等の新たな社会・経済の要請に応え、総合交通体系の基盤としての道路の役割強化や技術の進展を見据えた、新たな広域道路ネットワークを検討し、富山県新広域道路交通ビジョン、富山県新広域道路交通計画を令和3年6月に策定。

資料：富山県新広域道路交通ビジョン（P30）、富山県新広域道路交通計画

(2)地域の将来像(石川県新広域道路交通計画)

- 石川県は、石川県新広域道路交通ビジョン・新広域道路交通計画を令和3年6月に策定。

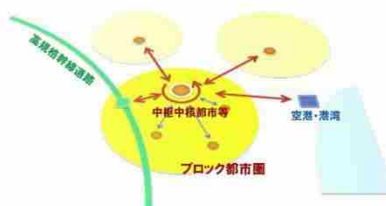
【新広域道路交通計画】

1. 新たな広域道路ネットワーク計画の考え方

国が令和2年6月公表した「新たな広域道路ネットワークに関する検討会 中間とりまとめ」では、現状の交通課題の解消を図る観点及び新たな国土形成の観点を踏まえ、広域道路ネットワークの効率的な強化を図ることとしており、計画の考え方を以下の通り示している。

(1) 新たな広域道路ネットワークの強化の方向性（基本戦略）

- 1) 中枢中核都市等を核としたブロック都市圏の形成
- 2) 我が国を牽引する大都市圏等の競争力や魅力の向上
- 3) 空港・港湾等の交通拠点へのアクセス強化
- 4) 災害に備えたリダンダンシー確保・国土強靱化
- 5) 国土の更なる有効活用や適正な管理



2. 広域道路ネットワーク計画

県内の高規格幹線道路及び地域高規格道路（計画路線）を位置づける。

高規格
道路

北陸自動車道、能越自動車道、金沢能登連絡道路（のと里山海道）、
金沢外環状道路、月浦白尾IC連絡道路、小松白川連絡道路、
能登空港インター道路

一般
広域
道路

直轄国道区間のほか、広域交通の拠点となる都市や拠点を連絡する道路
を位置づける。

国道8号、国道157号、国道159号、国道160号、国道415号、
加賀産業開発道路、加賀海浜産業道路

構想
路線

県内の地域高規格道路（候補路線）等を位置づける。

珠洲道路、門前道路、福井加賀道路

石川県広域道路ネットワーク

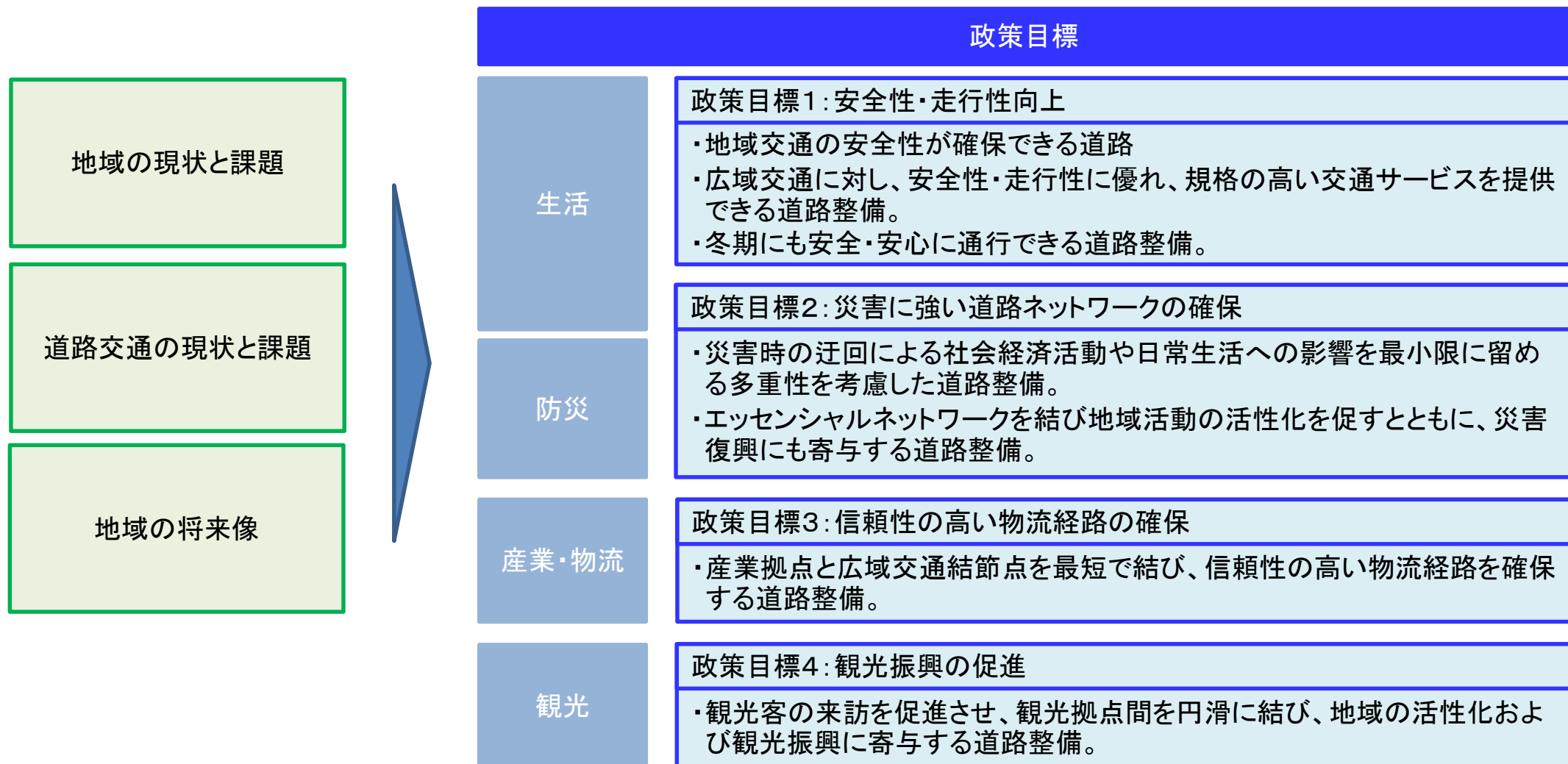


5. 政策目標の設定（地域の将来像）

富山県 元気とやま創造計画(総合計画)[H30.6] 目標年次:H30～H38		当該路線の政策目標
地域別の方向 高岡・射水地域	北陸新幹線を核とした広域的な交通基盤の整備や、伏木富山港(伏木、新湊地区)の港湾機能の充実、交通アクセスの向上等により、交通ネットワークの充実と地域の活性化を図ります。(P533)	- 信頼性の高い物流経路の確保 - 観光振興の促進
氷見市 総合計画[R4.3] 目標年次:R4～R13		当該路線の政策目標
利便性の高い道路網の整備	国道160号及び415号の整備を促進して、道路交通の安全性及び円滑化を図ります。また、基幹となる道路から各地域をつなぐ幹線道路網の整備により道路ネットワークの構築を図ります。(P74)	- 災害に強い道路ネットワークの確保 - 信頼性の高い物流経路の確保
氷見市 都市計画マスタープラン[H31.3] 目標年次:R20		当該路線の政策目標
都市施設等の整備方針	市内外の交通促進に向け、広域的な交通ネットワークである能越自動車道や国道160号・国道415号の整備促進とともに、市街地と生活拠点を結ぶ道路の整備・充実を図ります。(P533)	- 安全性・走行性向上 - 観光振興の促進
石川県成長戦略(総合計画)[R5.9] 目標年次:R5～R14		当該路線の政策目標
幹線道路ネットワークの強化	- 県土を隈なく網羅する幹線道路網整備や隣県へのアクセス強化など、人やものの交流を一層盛んにするため、幹線道路ネットワークを整備します。(P71) - 北陸新幹線でつながる北陸三県や岐阜県を結ぶ県際道路の整備(小松白川連絡道路、国道8号、国道415号、金沢湯涌福光線)(P533)	- 災害に強い道路ネットワークの確保 - 信頼性の高い物流経路の確保 - 観光振興の促進
羽咋市 総合計画[R3.5] 目標年次:R3～R12		当該路線の政策目標
将来都市構造	能越自動車道とのアクセス性を高め、隣接する富山県や中京圏との広域的な交流を促進するとともに、本市の中心都市拠点や各拠点の連絡強化を図ります。(P29)	- 災害に強い道路ネットワークの確保 - 信頼性の高い物流経路の確保 - 観光振興の促進
羽咋市 都市計画マスタープラン[H25.3] 目標年次:R12		当該路線の政策目標
都市施設等の整備方針	- 国道249号は第一次緊急輸送道路、国道415号は第二次緊急輸送道路であり、地域間相互や高次医療機関との連携強化を図る。(P163) 国道415号、市道羽咋286号線は、隣接する富山県や中京圏との広域的な交流を促進する東西道路であり、地域の各拠点を連系委、羽咋市の活力維持・創出する重要な道路として、ネットワーク機能の強化を図る。(P163)	- 安全性・走行性向上 - 信頼性の高い物流経路の確保 - 観光振興の促進
富山県 新広域道路交通計画[R3.6]		当該路線の政策目標
新広域道路交通計画	- 国際海上コンテナ車の増加、県境付近の道路ネットワークの脆弱性等の課題への対応のため、安定的な道路ネットワークの構築に向けて、高速道路及び幹線道路の多車線化・多重化、高規格道路や重要物流道路等の整備を促進する。(P30) 県境部の国道整備(石川県境、新潟県境、岐阜県境)(富山県新広域道路交通計画)	- 安全性・走行性向上 - 災害に強い道路ネットワークの確保 - 信頼性の高い物流経路の確保
石川県 新広域道路交通計画[R3.6]		当該路線の政策目標
新広域道路交通計画	- 災害に備えたりダンダンシー確保・国土強靱化(P6) - 広域交通拠点となる都市や拠点を連絡する道路:国道415号(P7)	- 災害に強い道路ネットワークの確保 - 信頼性の高い物流経路の確保

(3)政策目標

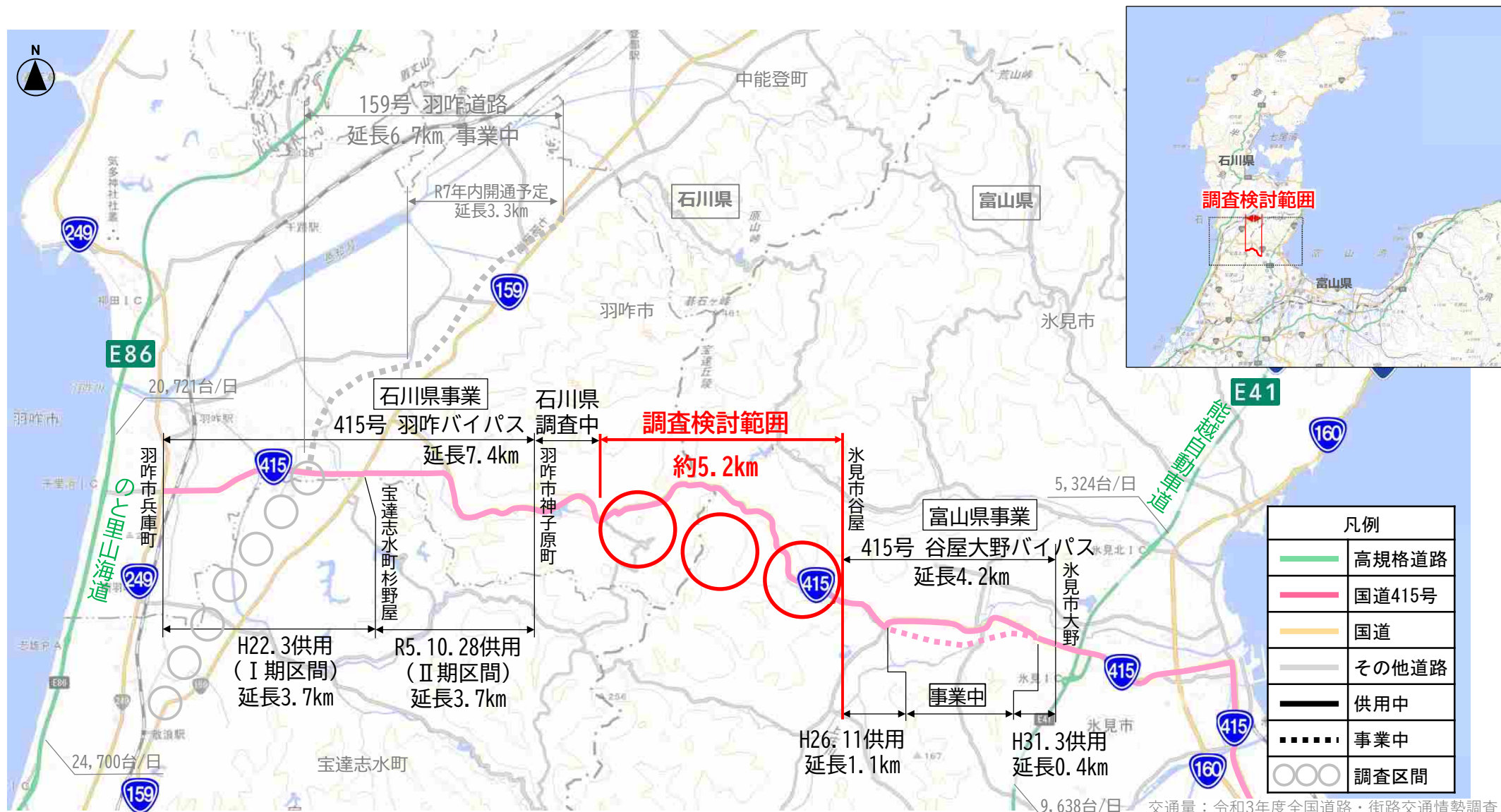
- 「地域の現状と課題」、「道路交通の現状と課題」、「地域の将来像」を踏まえ、政策目標を設定。



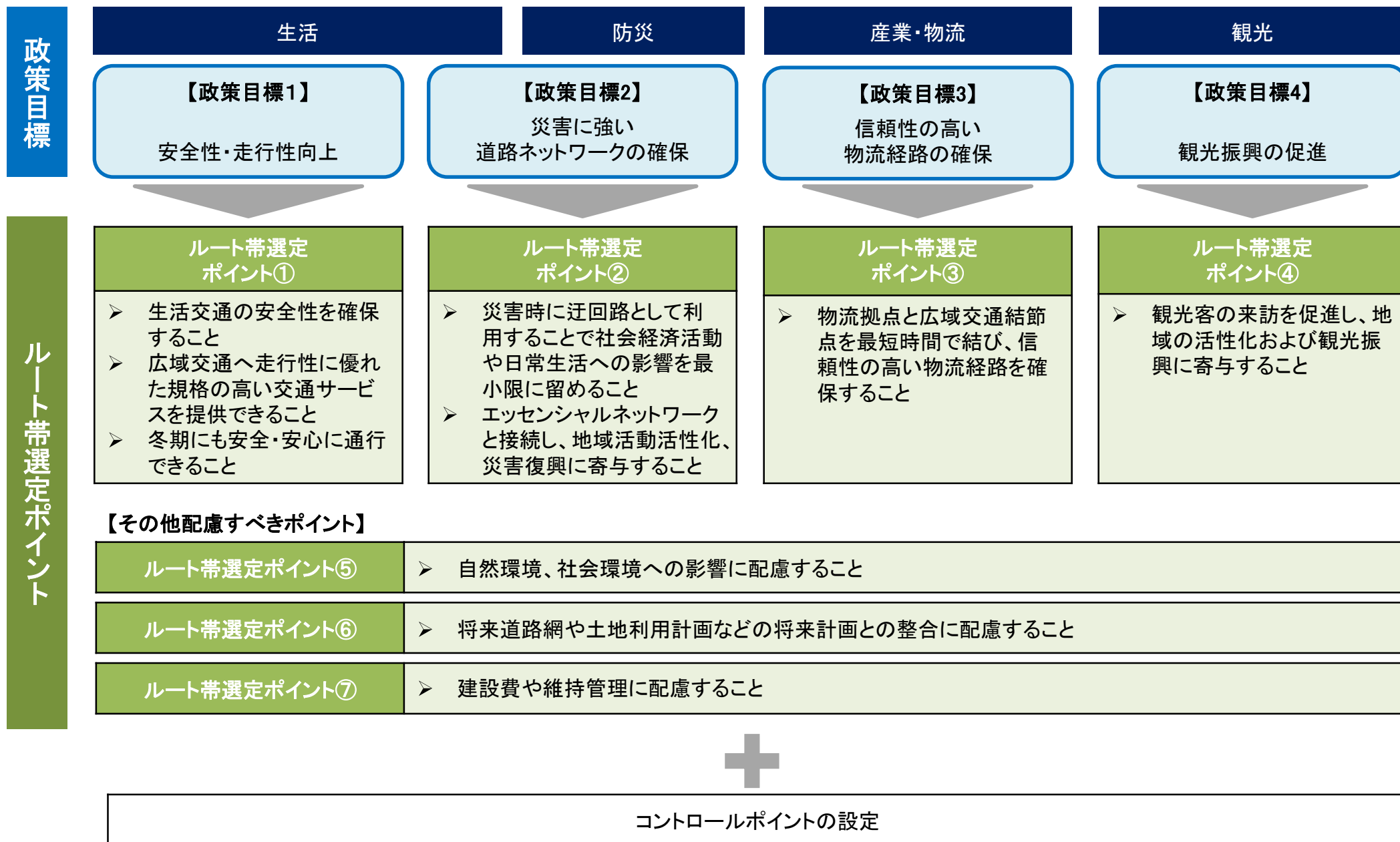
6. ルート帯の検討

(1) 調査検討範囲

● 起点: 石川県羽咋市神子原町 終点: 富山県氷見市谷屋

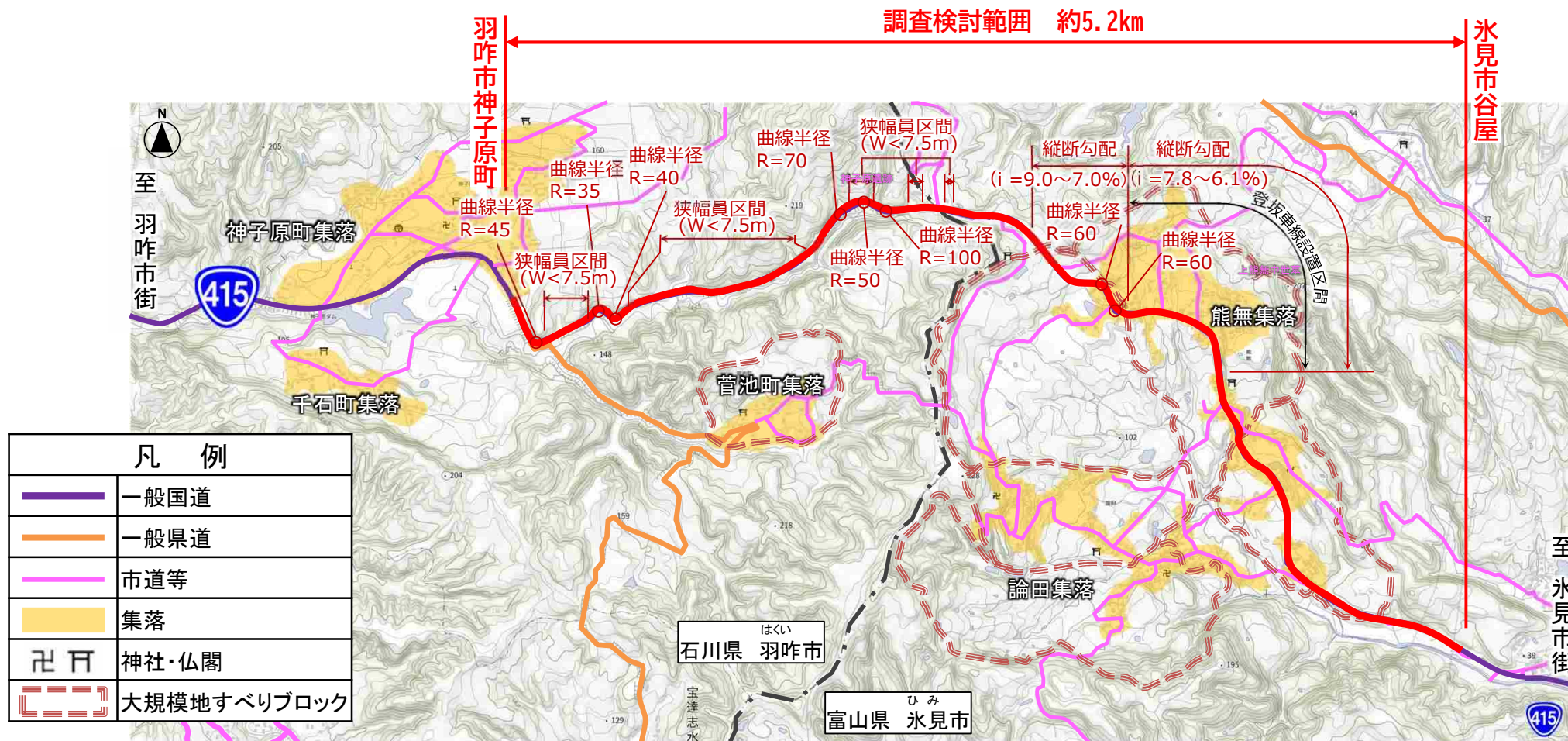


- 政策目標から、ルート帯選定ポイントを整理し、配慮すべき事項を追加設定する。
- ルート帯の検討にコントロールポイントを設定する。
- 3つのルート帯を提案し、政策目標に合った最適なルート帯を選定する。



(2)コントロールポイントの設定

- ルート帯を検討する上で主要なコントロールポイントとして、地形・地質面、社会環境面、自然環境面に配慮する。



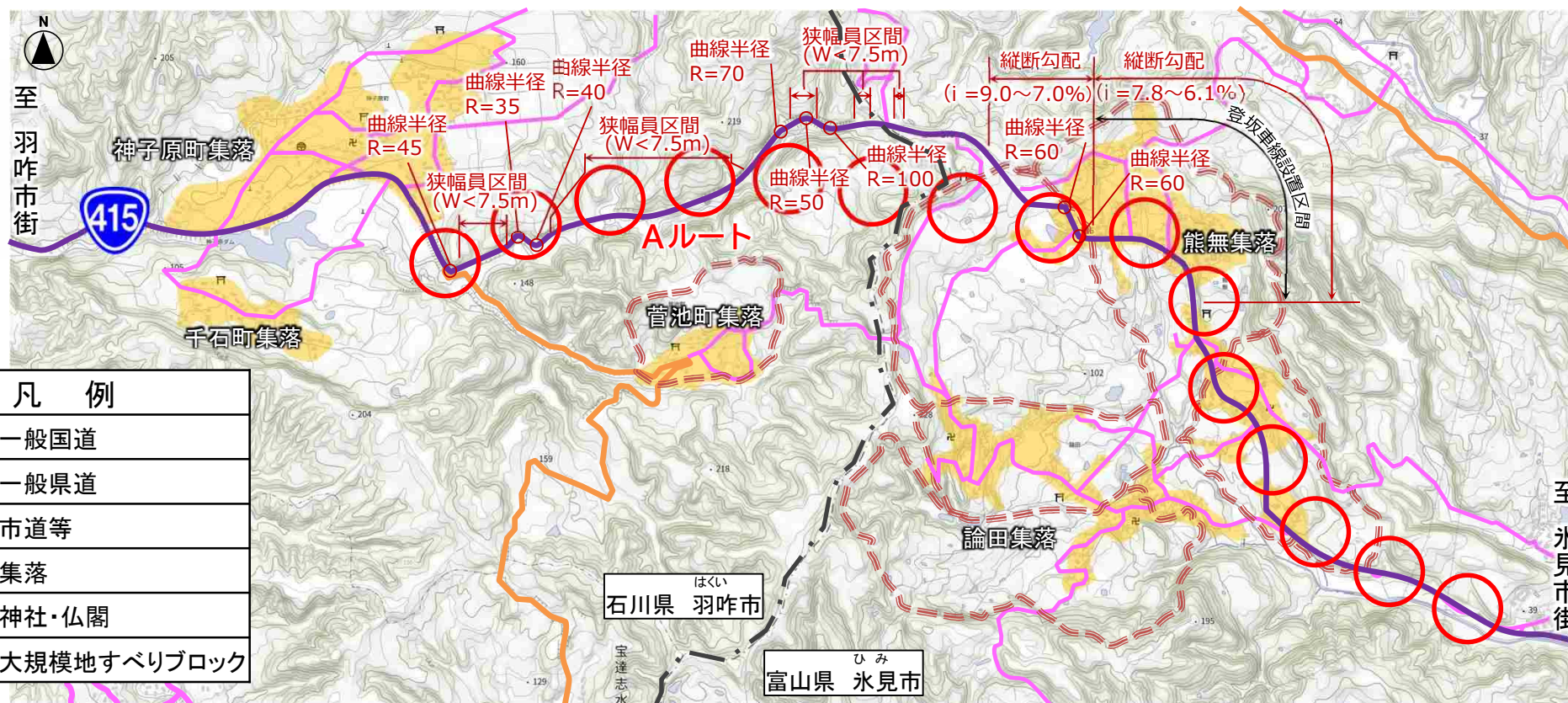
(3) ルート帯(Aルート)

■ルート帯の設定主旨

- 現道を最大限活用して費用を抑えた案

■ルート帯の概要

延長	約5.4km
設計速度	50km/h
車線数	2車線



※ルート帯については地すべりの深さが不確定の提案
※必要に応じて追加の地質調査を実施

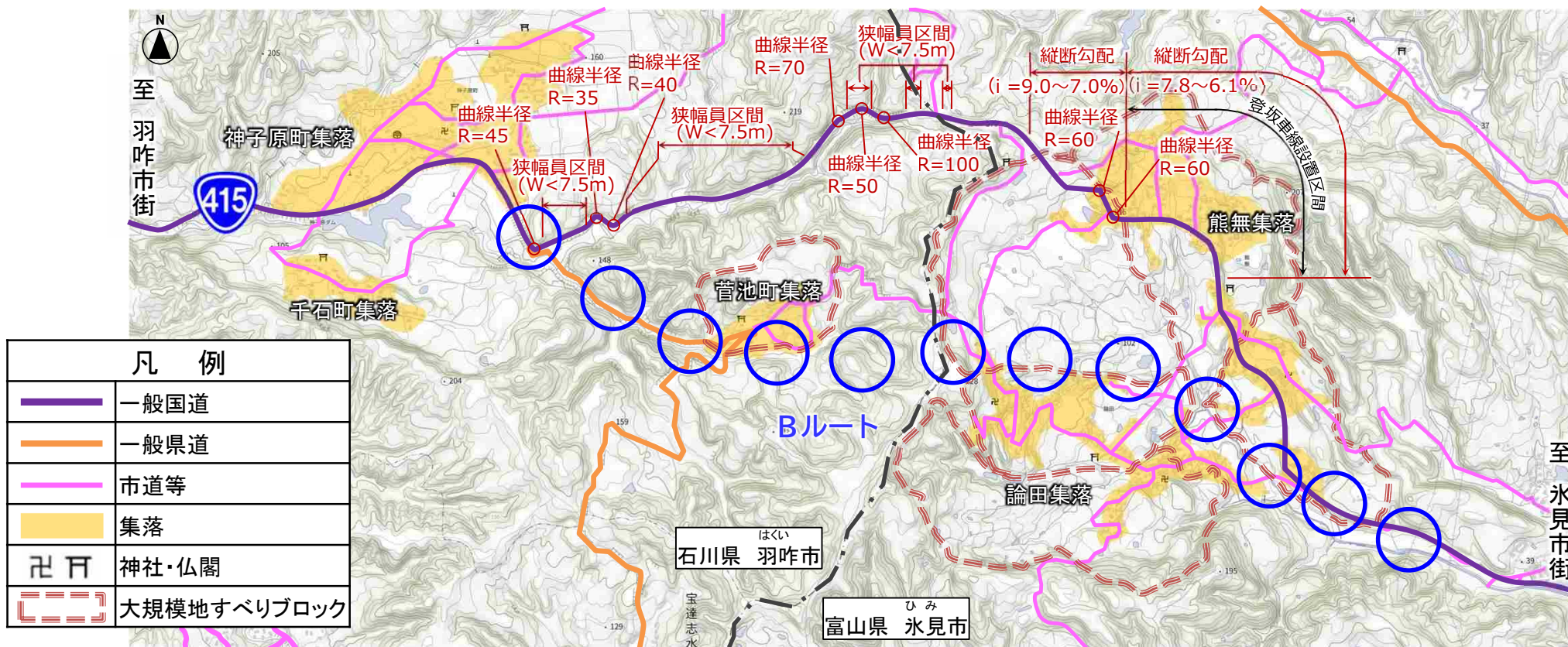
(3) ルート帯(Bルート)

■ルート帯の設定主旨

- 起終点間を最短で結び、かつ周辺集落との接続を確保する案

■ルート帯の概要

延長	約4.8km
設計速度	50km/h
車線数	2車線



※ルート帯については地すべりの深さが不確定の提案
※必要に応じて追加の地質調査を実施

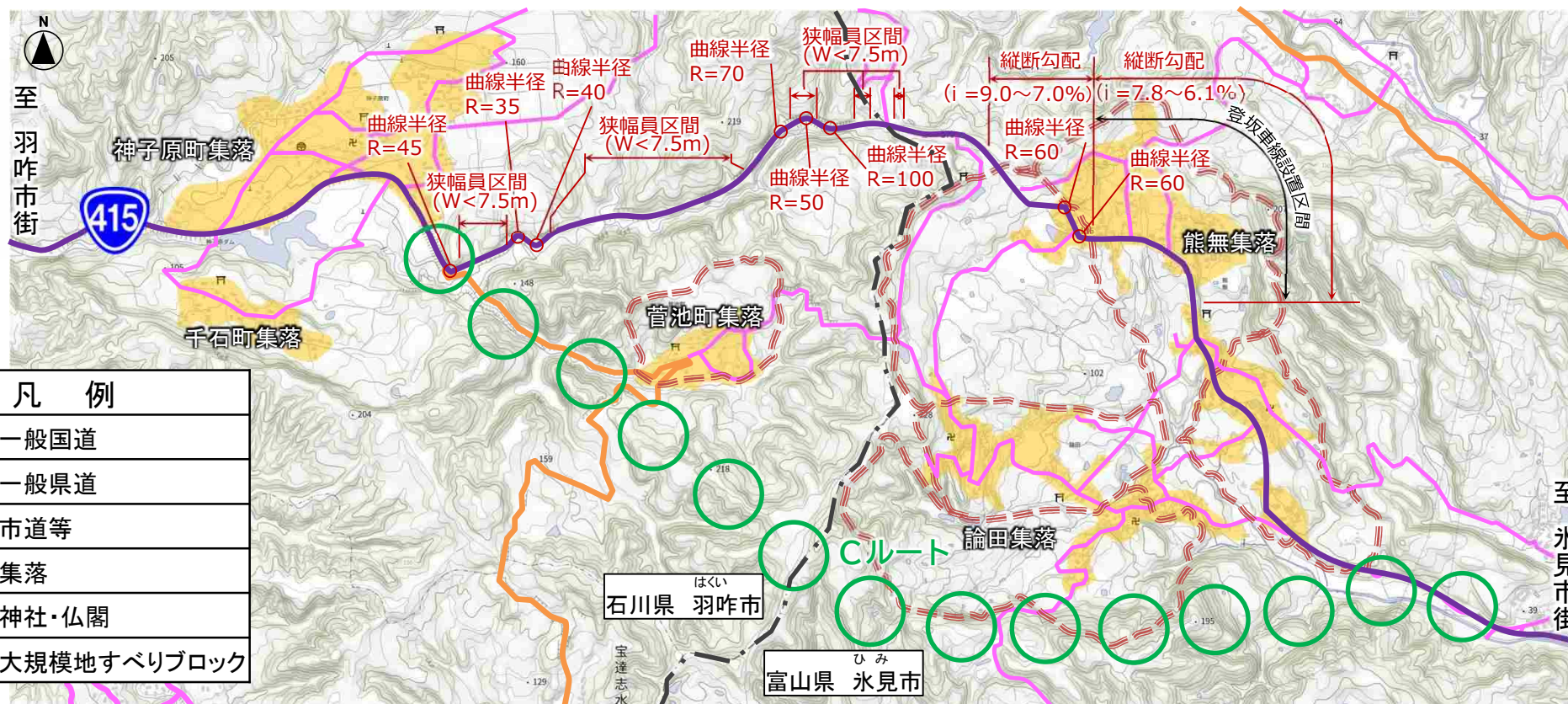
(3) ルート帯(Cルート)

■ルート帯の設定主旨

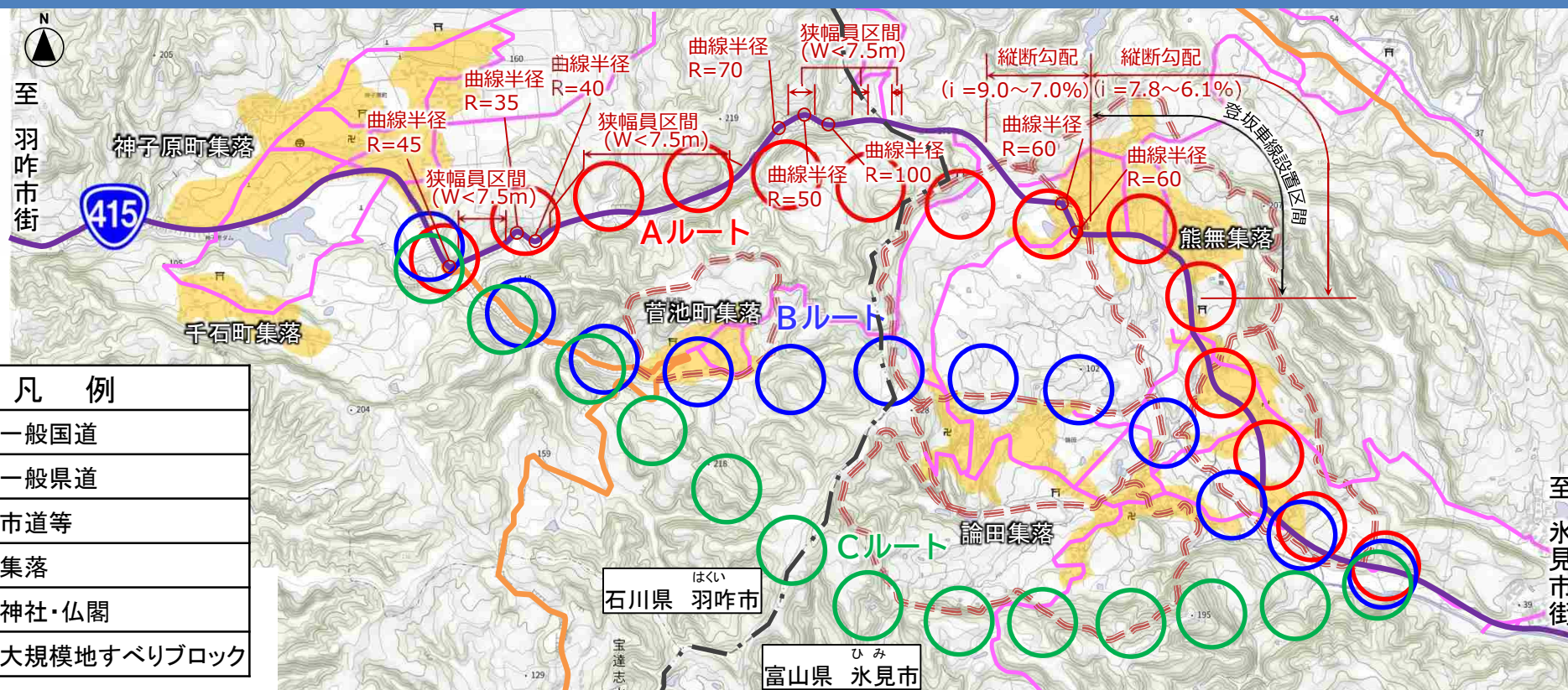
- 大きく迂回することで地すべり地帯の影響を最小化する案

■ルート帯の概要

延長	約5.0km
設計速度	50km/h
車線数	2車線



※ルート帯については地すべりの深さが不確定の提案
※必要に応じて追加の地質調査を実施



		Aルート (5.4km)	Bルート (4.8km)	Cルート (5.0km)
ルート帯の概要		現道を最大限活用して費用を抑えた案	起終点間を最短で結び、かつ周辺集落との接続を確保する案	大きく迂回することで地すべり地帯の影響を最小化する案
政策目標	①安全性、走行性向上	○幅員狭小・急カーブ解消 △急勾配区間（縦断勾配約8%）が残る	○幅員狭小・急カーブ解消 ○急勾配区間解消（縦断勾配4%以下）	○幅員狭小・急カーブ解消 ○急勾配区間解消（縦断勾配3%以下）
	②災害に強い道路ネットワークの構築	△局部改良のため、地すべりや冬期における防災機能面のリスクが残る	△地すべりブロックの境界付近を通過することで、リスクを最小化し、新たな代替路を確保	○地すべりブロックの影響を回避し、新たな代替路を確保
	③信頼性の高い物流機能の確保	△延長が最長、かつ急勾配区間（登坂車線設置済）が残り、物流ネットワーク強化に資する効果が小さい	○延長が最短かつ道路幾何構造上の課題が解消され、物流ネットワークの強化に資する	○延長はBルートと同程度、かつ縦断勾配が最も緩やかとなり、物流ネットワークの強化に資する
	④観光振興の促進	○急カーブ等の解消により走行性が向上し、観光を支援	○急カーブ等の解消により走行性が向上し、観光を支援	○急カーブ等の解消により走行性が向上し、観光を支援
配慮すべき点	⑤自然環境・社会環境への影響	△現道改良であり、家屋、田畑等に影響を与える可能性有 △施工時の規制等、周辺集落に影響を与える可能性有	△集落、圃場を通過しており、影響を与える可能性有 △施工時の規制等、周辺集落に影響を与える可能性有	○集落、圃場を通過しないため、影響を与える可能性小 △工事に伴う掘削等の影響が大きい
	⑥将来道路網や土地利用計画等との整合	○熊無集落へアクセス可能（現道改良のため、現況と同様） ○羽咋市、氷見市の将来計画を支援可能	○菅池町・論田集落へアクセス可能（新たな接続を確保） ○羽咋市、氷見市の将来計画を支援可能	×菅池町・論田・熊無集落に直接アクセスできない ○羽咋市、氷見市の将来計画を支援可能
	⑦概算費用	○構造物の規模が最も小さく、道路本体の建設費が最も小さい	△構造物規模が中程度であり、道路本体の建設費が中程度	×構造物の規模が最も大きく、道路本体の建設費が最も大きい

7. 意見聴取方法および評価項目の設定(案)

7. 意見聴取方法および評価項目の設定（案）

40

(1) 調査概要

■ 意見聴取の概要

- (1) 実施目的：ルート検討において重視すべき項目
- (2) 調査主体：富山県・石川県・富山河川国道事務所・金沢河川国道事務所
- (3) 意見聴取の調査対象と調査方法（案）：下表参照
- (4) 意見聴取期間：1ヶ月程度
- (5) 周知方法：富山県・石川県・富山河川国道事務所・金沢河川国道事務所・氷見市・羽咋市・協力市町ホームページ（バナー含）、氷見市・羽咋市LINE、チラシ、ポスター、SNS（Instagram、X(旧Twitter)、YouTube）

■ アンケート調査（案）

項目	調査対象	調査方法	回収方法
地域住民	沿道地域	氷見市・羽咋市の調査検討範囲周辺の住民	・郵送 ・Web
	周辺地域	氷見市・羽咋市と、その隣接市町の住民（高岡市・七尾市・志賀町・中能登町・宝達志水町）	・Webアンケートへの回答依頼 ・市町SNS ・道の駅等にチラシ・ポスターを配置（氷見、雨晴、万葉の里高岡、なかじまロマン峠、のとじま、能登食祭市場、いおり、ころ柿の里しか、織姫の里なかのと、のと千里浜、志雄PA（のと里山海道）、神子の里（国道415号））
	一般	広く一般の人々	・国県ホームページ、SNS

■ 対象区間位置



■ ヒアリング調査（案）

項目	調査対象
主要企業	製造業者、運送業者（選定企業）
交通事業者	加越能バス株式会社、北陸鉄道バス
消防機関	氷見市消防本部、羽咋郡市広域圏事務組合消防本部
警察機関	富山県警察本部、石川県警察本部
地方自治体	富山県、氷見市、石川県、羽咋市
学校	対象区間に隣接する小中学校関係者
地区代表者	氷見市熊無・論田、羽咋市神子原町・千石町・菅池町

● 意見聴取の項目のうち、「ルート帯の選定ポイント」から「ルート帯を選定するために重視すべき項目」として、9項目＋その他を設定した。

ルート帯選定のポイント

①生活交通の安全性を確保し、広域交通へ走行性に優れた規格の高い交通サービスを提供し、冬期にも安全・安心に通行できること

②災害時の迂回による社会経済活動や生活への影響を最小限に留め、エッセンシャルネットワークと接続し、地域活動活性化、災害復興に寄与すること

③物流拠点と広域交通結節点を最短時間で結び、信頼性の高い物流経路を確保すること

④観光客の来訪を促進し、地域の活性化および観光振興に寄与すること

⑤自然環境、社会環境への影響に配慮すること

⑥将来道路網や土地利用計画などの将来計画との整合に配慮すること

⑦建設費や維持管理に配慮すること

ルート帯を選定するために重視すべき項目

①交通事故が少なく、冬期にも安全・円滑に走行できること

②事故や災害による通行止めや広域迂回が起きにくいこと

③最短時間で通過できること

④市街地へのアクセス性に優れ、観光客の来訪を促進し、地域の活性化および観光振興に寄与すること

⑤自然環境への影響が少ないこと

⑥家屋・田畑等への影響が少ないこと

⑦主要都市間の連携強化を支援すること

⑧集落とのアクセス性に配慮していること

⑨建設費・維持管理費が安いこと

⑩その他

(2) 調査内容

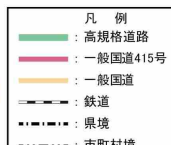
国道415号富山・石川県境部
みちづくりに関するアンケート調査

本アンケートは、国道415号県境部の道路整備にあたり、計画の初期段階から、地域の皆様へ情報提供を行うとともに、広くご意見を募り、計画に反映するものです。

今回は、道路のルート帯を選定する際に、重視すべき指標（走行性、安全性、利便性等）についてお問い合わせします。

調査結果は、集計・とりまとめ後、富山県・石川県・富山河川国道事務所・金沢河川国道事務所のホームページに掲載予定です。調査結果は統計的に処理し、個人の意見等が特定されることはございません。

お忙しいところ大変恐縮ではございますが、調査の主旨にご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。



返信用ハガキ

※投函する場合は、✕キリトリ線で切り取ってから投函してください。

郵便はがき

料金受取人払郵便



富山南局承認

差出有効期限

2025年3月31日まで

切手を貼らずに

お出しください。

富山市奥田新町2番1号

国土交通省 北陸地方整備局
富山河川国道事務所 計画課 行

あなたについてお聞かせください。

住所	1. 氷見市熊無 2. 氷見市論田 3. 氷見市その他() 4. 羽咋市神子原町 5. 羽咋市千石町 6. 羽咋市菅池町 7. 羽咋市その他() 8. 高岡市 9. 七尾市 10. 志賀町 11. 宝達志水町 12. 中能登町 13. その他(都・道・府・県 市・区・町・村)
年齢	1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70代以上
職業	1. 会社員 2. 公務員 3. 自営業 4. 学生 5. 主婦・主夫 6. 無職 7. その他()
性別	1. 男性 2. 女性 3. 回答しない
運転免許	1. あり 2. なし

※個人情報等を第三者に開示・提供することはありません
(法令により開示を求められた場合を除きます)

あなたについてお聞かせください。

該当するものを1つ選んで、番号に○をつけてください。「その他」を選択された方は()内に具体的な住所または職業をお書きください。

住所	1. 氷見市熊無 2. 氷見市論田 3. 氷見市その他() 4. 羽咋市神子原町 5. 羽咋市千石町 6. 羽咋市菅池町 7. 羽咋市その他() 8. 高岡市 9. 七尾市 10. 志賀町 11. 宝達志水町 12. 中能登町 13. その他(都道府県 市区町村)
年齢	1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70代以上
職業	1. 会社員 2. 公務員 3. 自営業 4. 学生 5. 主婦・主夫 6. 無職 7. その他()
性別	1. 男性 2. 女性 3. 回答しない
運転免許	1. あり 2. なし

⇒裏面に続きます

皆様のご意見をお聞かせください！

アンケート回答締め切り 令和6年●月●●日(●)まで

問1 国道415号の道路利用について

国道415号の道路利用についてお聞かせください。
(該当するもの1つに○を付けてください)

A. 自動車の利用	1. はい(自分で運転している) 2. はい(他の人が運転する自動車に同乗) 3. いいえ ※問2へ
B. 利用頻度	1. 週に5回以上 2. 週に3~4回 3. 週に1~2回 4. 月に1~2回 5. 年に数回 6. 利用したことがない(※問2へ)
C. 利用目的	1. 通勤・通学 2. 通院 3. 家事・買物 4. 仕事(営業・運送等) 5. 観光・レジャー 6. その他(※具体的な内容をお書きください)
D. 主な目的地	1. 富山県東部(富山市、魚津市、滑川市、黒部市、舟橋村、上市町、立山町、入善町、朝日町) 2. 高岡市 3. 氷見市 4. 砺波市 5. 小矢部市 6. 南砺市 7. 射水市 8. 能登北部(輪島市、珠洲市、穴水町、能登町) 9. 七尾市 10. 羽咋市 11. 志賀町 12. 宝達志水町 13. 中能登町 14. 石川県南部(金沢市、小松市、加賀市、かほく市、白山市、能美市、野々市市、川北町、津幡町、内灘町) 15. 新潟県方面 16. 福井県方面 17. 岐阜県方面

問2 今回、複数のルート帯案を検討していますが、地域にとって望ましい案を選ぶ際に重視すべき項目はどれだと思われますか？
※該当するものに○をつけてください(3つまで回答可)

1. 交通事故が少なく、冬期にも安全・円滑に走行できること
2. 事故や災害による通行止めや広域迂回が起きにくいこと
3. 最短時間で通過できること
4. 市街地へのアクセス性に優れ、観光客の来訪を促進し、地域の活性化および観光振興に寄与すること
5. 自然環境への影響が少ないこと
6. 家屋・田畑等への影響が少ないこと
7. 主要都市間の連携強化を支援すること
8. 集落とのアクセス性に配慮していること
9. 建設費・維持管理費が安いこと
10. その他()

問3 問2でチェックした項目について、今後具体的なルートを検討する際に配慮すべき事項があれば、具体的にお聞かせください。

※解答欄にご記入ください

問4 これまでの質問以外に、ご意見がありましたらお聞かせください。

※解答欄に、国道415号に関するご意見について、ご自由にお書きください

アンケートのお問い合わせ先

■調査実施主体
富山県 土木部 道路課
〒930-8501 富山県富山市総曲輪1丁目7番地
電話：076-444-3318
URL：https://www.pref.toyama.jp

石川県 土木部 道路建設課
〒920-8580 石川県金沢市鞍月1丁目1番地
電話：076-225-1721
URL：https://www.pref.ishikawa.lg.jp/index2.html

富山河川国道事務所 計画課
〒930-0857 富山市奥田新町2番1号
電話：076-443-4717
URL：https://www.hrr.mlit.go.jp/toyama/

金沢河川国道事務所 計画課
〒920-8648 金沢市西念4丁目23番5号
電話：076-264-9912
URL：https://www.hrr.mlit.go.jp/kanazawa/

■調査協力自治体
氷見市 建設部 道路課
電話：0766-74-8071

羽咋市 産業建設部 地域整備課
電話：0767-22-1119

✕キリトリ線
アンケート回答欄

問1 国道415号の道路利用について (主たる道路利用に対し、該当する番号に1つだけ○)
A 1. はい(自分で運転) 2. はい(他車に同乗) 3. いいえ(問2へ)
B 1. 週に5回以上 2. 週に3~4回 3. 週に1~2回 4. 月に1~2回 5. 年に数回 6. 利用したことがない(問2へ)
C 1. 通勤・通学 2. 通院 3. 家事・買物 4. 仕事(営業・運送等) 5. 観光・レジャー 6. その他()
D 1. 富山県東部 2. 高岡市 3. 氷見市 4. 砺波市 5. 小矢部市 6. 南砺市 7. 射水市 8. 能登北部 9. 七尾市 10. 羽咋市 11. 志賀町 12. 宝達志水町 13. 中能登町 14. 石川県南部 15. 新潟県方面 16. 福井県方面 17. 岐阜県方面
問2 今回、複数のルート帯案を検討していますが、地域にとって望ましい案を選ぶ際に重視すべき項目はどれだと思われますか？ (該当する番号に○ ※3つまで回答可)
1. 交通事故が少なく、冬期にも安全・円滑に走行できること
2. 事故や災害による通行止めや広域迂回が起きにくいこと
3. 最短時間で通過できること
4. 市街地へのアクセス性に優れ、観光客の来訪を促進し、地域の活性化および観光振興に寄与すること
5. 自然環境への影響が少ないこと
6. 家屋・田畑等への影響が少ないこと
7. 主要都市間の連携強化を支援すること
8. 集落とのアクセス性に配慮していること
9. 建設費・維持管理費が安いこと
10. その他()
問3 問2でチェックした項目について、今後具体的なルートを検討する際に配慮すべき事項があれば、具体的にお聞かせください。
問4 これまでの質問以外に、ご意見がありましたらお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。